平 成 ２ ４ 年 度
（平成２３年度対象）

福知山市教育委員会
点検・評価報告書

平成２４年１２月

福知山市教育委員会

目　次

1　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2　平成２３年度での教育委員会事務点検・評価委員の意見・助言を踏まえて・・・・2

3　教育委員会議、協議会の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

4　教育委員会議での審議状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

5　教育委員会議以外の活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

6　施策の取組状況評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

（1）点検・評価の対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

（2）点検・評価結果の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

（3）教育委員会事務点検・評価委員の意見・助言等・・・・・・・・・・・・・・１１

（4）評価の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

1　青少年の健全育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
2　学校教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
3　生涯学習の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
4　文化財の保存・活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
5　文化・スポーツ活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
6　生命の尊重・人権意識の高揚・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
7　教育委員会の運営改善・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

7　おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

8　資料　（1）教育委員会組織機構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
（2）教育委員会事務分担表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
（3）評価の詳細・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
（4）福知山市教育委員会事務点検及び評価実施要綱・・・・・・・・５１

1　はじめに

福知山市教育委員会では、教育行政の充実を図るとともに市民への説明責任を果たすことを目的として、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２７条の規定に基づき、平成２３年度の教育委員会の事務事業を、昨年度に策定されました『第４次福知山市総合計画後期計画』の「第７章　魅力ある人とまちを創り出す教育・文化のまちづくり」にある５施策及び、教育委員会として主要事項と判断した「生命の尊重・人権意識の高揚」と「教育委員会の運営改善」の計７施策に分け、教育委員会自らが事務・事業の進捗状況等について、前年の点検・評価の際に教育委員会事務点検・評価委員からいただいた意見・助言を活かして、本年も同様に委員から意見等をいただきながら、教育的な視点に立って点検・評価を実施し、本報告書を作成しました。

これは、これからの教育委員会のあり方を問われているものであり、市民の信頼を高め、開かれた教育行政を推進していくことを強く求められているものですので、この点検・評価結果を、教育行政の効果的推進に向けて、教育行政全般において各々の事業がもつ位置づけや目的、事業のあり方などを意識しながら、今後の教育行政の推進に適切に反映させていきたいと考えております。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律〔抜粋〕(平成２０年４月１日施行)

第２７条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成２３年度福知山市教育委員会委員

委員長	上山　英子	
委　員	倉橋　德彦	（委員長職務代理者）
委　員	人見　洋一	（平成２３年６月２７日付け退任）
委　員	大槻　豊子	
委　員	瀬田　眞澄	（平成２３年６月２８日付け就任）
教育長	荒木　德尚	

2　平成２３年度での教育委員会事務点検・評価委員の意見・助言を踏まえて

【教育委員会事務点検・評価委員の意見・助言】

各施策・項目ごとに実施されている一つひとつの事業は理解できるので、市教育行政全体として目指されている全体像を示し、その実施状況、成果と課題を評価されていくことを望む。

教育の重点施策を具体的にイメージできるようにされることが大切である。

例えば、保護者や市民の関心事である「学力」「生徒指導」「健康安全」等について、実施の成果と次年度への課題をできる限り明らかにされたい。

また、評価の客観性を確保するために、実施前に成果指標として数値化できる事務事業は具体的な数値目標を定めておく。事業期間が複数年にまたがる事業の評価は、全体を通して評価をする必要がある。

さらに、評価の判断基準の適用に当たっては、評価の根拠として各施策で実施されている実態調査・市民意識調査・学校評価等、各種の調査により評価されることが望ましい。

以上の点から、結論として、点検・評価を次年度につなげていくためには、市民の関心や理解、連携・協力を得ていくことが欠かせないので、広報に努められたい。

【平成２３年度での取り組み状況】

○市教育行政の全体像

憲法と教育基本法の理念に基づき北近畿をリードする創造性あふれるまち福知山の実現に向けて、活力と潤いのある未来をつくるため、社会変化に対応できる調和のとれた、心豊かな人づくりを目指す。そのためには、未来を担う子どもたちが目標を持ち、自ら学び自ら考え、夢に向かってたくましく生きていくためのよりよい環境を最優先に考えて整備し、確かな学力、豊かな人間性、健康や体力の増進などの「生きる力」の育成と生涯学習の積極的な推進を目標に、学校教育と社会教育が緊密な連携を進め、家庭・地域社会・学校の実態に即して、中長期的な展望に立った特色ある教育活動で、「教育のまち福知山」を創造していかなければならない。

○市民への広報

市民への広報は、市広報誌や市教委ホームページで情報提供を行うとともに、啓発ステッカーや啓発用冊子を作成し、市民に広く配布した。

今後は、更に市民に福知山市の教育を知っていただけるように取り組んでいく。

○成果指標の数値化

全ての項目にわたってアンケート等により市民の意向等について数値化することは難しいが、評価の詳細（２５ページ以降）においてできる限り数値化に努めた。

○福知山市の学力

・平成２３年度小学校学力診断テスト（概要）

実施日：平成２３年４月１１日～１８日
対象者：市内２６小学校　４年生７８５人　６年生８０３人
科　目：国語・算数
実施主体：京都府
実施目的：学習指導要領に照らした学習の実現状況の把握、並びに結果分析により指導上の課題を明らかにして授業改善を進め、学力充実・向上を図る。
結果概要：４年生、６年生とも国語・算数において、京都府平均を上回っている。各校の結果を分析し、授業改善を進め、学力の充実を図る。

・平成２３年度中学校学力診断テスト（概要）

実施日：平成２３年１０月２６日
対象者：市内９中学校　２年生７０３人
科　目：国語・数学・英語
実施主体：京都府
実施目的：学習指導要領に照らした学習の実現状況の把握、並びに結果分析により指導上の課題を明らかにして授業改善を進め、学力充実・向上を図る。
結果概要：国語・数学・英語とも京都府の平均を上回っている。

上記が平成２３年度に行われた学力診断テストの概要である。

このテストの結果については、一部の判断にしかならず、児童・生徒の学力全てではないと考える。

○児童生徒の指導

シームレス学園構想や家族だんらんの日の取り組みで、教育目標をより焦点化した、より方向性を示すことができたと考える。

学校評価を見る限りにおいて、学力についても、児童生徒指導についても、一定の評価をあげており、およそ良好な状態である。

3　教育委員会議、協議会の開催状況

教育委員会議については、原則として毎月１回「定例会」、必要に応じて「臨時会」を開催しており、また事前協議等のための「協議会」も開催しています。

（1）教育委員会定例会・・・・・１２回

（2）教育委員会臨時会・・・・・・３回

（3）教育委員会協議会・・・・・１０回

4　教育委員会議での審議状況

（1）定例会・臨時会

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２３条に定める職務について、同法第２６条及び「福知山市教育委員会基本規則」第１０条に定める事務について、平成２３年度は合計３８件について審議しました。

①教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること・・・・・・・４件

②委員会規則その他委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること・・・・・３件

③教育予算、条例案、その他議会の議決を経るべき議案について・・・・・・１２件

④法令又は条例に定めのある附属機関の委員の委嘱・・・・・・・・・・・・・・２件

⑤委員会及び学校その他の教育機関の職員の人事に関すること・・・・・・・・７件

⑥教科書の採択に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１件

⑦教育に係る後援に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６件

⑧教育に係る表彰に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１件

⑨市指定文化財の指定に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１件

⑩教育委員会点検・評価に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１件

○平成２３年度　教育委員会議審議案件一覧

議案番号	件　　名	議決日
議第 1 号	第33回西京都少年野球振興会　会長杯争奪少年野球大会後援の承認を求める件	4月26日
議第 2 号	第28回全日本小学生ソフトテニス選手権大会後援の承認を求める件	5月24日
議第 3 号	平成23年度一般会計教育費歳入歳出補正予算要求書の提出について	
議第 4 号	教育委員の辞職について	
議第 5 号	逆境を味方につける男　中村文昭ｉｎ福知山　後援の承認を求める件	6月28日
議第 6 号	第44回日本女子ソフトボールリーグ２部(アドバンスセクション)第４節京都大会(福知山ソフトボール協会創立50周年記念大会)後援の承認を求める件	
議第 7 号	学校体育ソフトボール近畿地区研修会後援の承認を求める件	
議第 8 号	第26回近畿へき地教育研究会の後援の承認を求める件	
議第 9 号	専決処分の承認について	
議第 10 号	福知山市教育委員会基本規則の一部を改正する規則の制定について	7月26日
議第 11 号	第25期福知山市文化財保護審議会委員の委嘱について	
議第 12 号	福知山市指定文化財の指定について	
議第 13 号	平成24年度以降使用中学校教科用図書の採択について	8月4日
議第 14 号	福知山市立公民館条例等の一部を改正する条例の制定について	8月26日
議第 15 号	福知山市立公民館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	
議第 16 号	福知山市大江町過疎地域集会施設条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	
議第 17 号	平成23年度一般会計教育費歳入歳出補正予算要求書の提出について	
議第 18 号	平成23年度教育委員会表彰について	9月28日
議第 19 号	社会教育主事の任命について	
議第 20 号	職員の異動発令について	
議第 21 号	委員長の選任について	
議第 22 号	委員長職務代理者の指定について	
議第 23 号	平成23年度一般会計教育費歳入歳出補正予算要求書の提出について	10月28日
議第 24 号	平成24年度福知山市立学校教職員人事異動方針の策定について	11月18日
議第 25 号	工事請負契約の締結について	11月29日
議第 26 号	工事請負契約の締結について	

議第 27 号	平成24年度学校教育の重点について	12月21日
議第 28 号	平成24年度社会教育の重点について	
議第 29 号	平成23年度福知山市教育委員会点検・評価報告書について	1月25日
議第 30 号	福知山市立公民館条例の一部を改正する条例の提出について	2月23日
議第 31 号	福知山市立図書館条例の一部を改正する条例の提出について	
議第 32 号	工事請負契約の締結について	
議第 33 号	物品の取得について	
議第 34 号	平成23年度一般会計教育費歳入歳出補正予算要求書及び繰越調書の提出について	
議第 35 号	平成24年度予算概要について	
議第 36 号	教職員人事異動内申について	
議第 37 号	教職員人事異動内申について	3月15日
議第 38 号	教育委員会及び学校その他の教育機関の職員の異動発令について	3月22日

○平成２３年度教育委員会議 報告・説明事項

番号	件 名	報告日
1	学校運営協議会設置校の指定について	4月26日
2	機構改革による後援申請の承認の取扱いについて	
3	３回目以降の後援申請の承認結果について(No.１～８)	
4	福知山市教育委員会教育訓令甲第１号について	5月24日
5	福知山市少年補導センター運営委員会委員・幹事の委嘱について	
6	福知山市立公民館運営審議会委員の委嘱について	
7	３回目以降の後援申請の承認結果について(No.９～10)	
8	市立幼稚園就園奨励費交付要綱の改正について	6月28日
9	福知山市少年補導センター運営委員会委員の委嘱について	
10	福知山市立図書館協議会委員の委嘱について	
11	３回目以降の後援申請の承認結果について(No.11～21)	
12	３回目以降の後援申請の承認結果について（No.22～27)	7月26日
13	請願に係る処理の経過と結果の報告について	8月26日
14	教育長決裁による後援承認事項について（No.28～29)	
15	平成24年度福知山市立幼稚園児募集について	9月28日
16	教育長決裁による後援承認事項について（No.30～38)	
17	平成23年度福知山市少年補導センター運営委員会委員の委嘱について	10月28日
18	教育長決裁による後援承認事項について（No.39～50)	
19	福知山市教育集会所指定管理候補者の決定について	11月29日
20	教育長決裁による後援承認事項について（No.51～57)	
21	平成24年度福知山市立幼稚園児の募集結果について	12月21日
22	(仮称)夜久野学園経過報告について	
23	平成24年度の予定について	
24	平成24年福知山市成人式について	
25	教育長決裁による後援承認事項について（No.58～64)	

26	福知山市教育委員会教育訓令甲第２号について	1月25日
27	平成24年度全国学力・学習状況調査への協力と希望利用について	
28	教育長決裁による後援承認事項について（№65～67）	
29	平成24年度学校教育の重点について	2月23日
30	平成24年度社会教育の重点について	
31	シームレス学園構想について	
32	教育長決裁による後援承認事項について（№68～71）	
33	教育長決裁による後援承認事項について（№72～73）	3月22日

（２）協議会

「福知山市教育委員会基本規則」第４条により開催した協議会において、案件一覧表のとおり平成２３年度は合計１４件について協議しました。

○平成２３年度　教育委員会協議会案件一覧

番号	件　　　　名	協議日
1	平成22年度事業実績及び平成23年度重点事業について	4月26日
2	学校施設の耐震化について	
3	教育委員会点検・評価について	
4	夜久野学園（小中一貫校）構想について	5月24日
5	市立学校教育改革推進プログラム（案）パブリックコメント等実施結果について	
6	市立学校教育改革推進プログラム策定について	6月8日
7	市立学校教育改革推進プログラム（案）パブリックコメントについて	
8	後援承認に係る教育委員会基本規則の改正について	6月28日
9	夜久野地域の小学校区での学校教育問題説明会の状況について	
10	教育委員会点検・評価について	8月26日
11	司書教諭補助員について	10月28日
12	平成24年度全国学力・学習状況調査への協力と希望利用について	12月21日
13	平成23年度（平成22年度対象）福知山市教育委員会点検・評価報告書について	
14	福知山市教育振興プラン（基本計画）の骨格について	1月25日

7月26日．11月29日の２回については、教育長報告のみ

5　教育委員会会議以外の活動（教育委員が出席した活動等）

月	各種行事・大会等	
	福知山市関係	国・府関係
4月	新任校長着任式 市立幼稚園、小・中学校当初校（園）長会議 自治功労者表彰	中丹管内教育委員会委員長・教育長会議
5月	春季自治会長会 教科書採択委員会	中丹地方教育委員会連絡協議会
6月	市議会定例会 学校統合説明会（夜久野地域）	京都府社会教育委員連絡協議会
7月	市立幼稚園、小・中学校第２回校（園）長会議 教科書採択委員会	
8月	市学校教育振興会研究発表会 市小学生陸上競技大会 教科書採択研究会	
9月	市議会定例会 教育委員会事務点検・評価会議	
10月	国民文化祭　鬼シンポジウム 細見小学校研究発表会 学校保健研究大会 教育委員会事務点検・評価会議 秋季自治会長会	京都府小学校研究大会 日本ＰＴＡ近畿ブロック研究大会京都府大会 近畿市町村教育委員研修大会
11月	国民文化祭　盆踊りフェスティバル 学校音楽祭 南陵中学校研究発表会 教育委員会表彰 夜久野中学校訪問 福知山マラソン表彰式	京都府内市町（組合）教育委員研修会
12月	市議会定例会 市立幼稚園、小・中学校第３回校（園）長会議	
1月	福知山市成人式 外国語研究開発事業発表会	
2月	市学校教育フェスティバル	中丹地方教育委員会連絡協議会 府民総体市町村対抗駅伝開始式・表彰式
3月	市議会定例会 市立小・中学校卒業式	

6　施策の取組状況評価

（1）点検・評価の対象

「青少年の健全育成」「学校教育の充実」「生涯学習の推進」「文化財の保存・活用」「文化・スポーツ活動の推進」「生命の尊重・人権意識の高揚」「教育委員会の運営改善」の７施策に分類して、各々の項目に該当する平成２３年度の教育委員会事務事業を点検・評価の対象としています。

平成２３年度福知山市教育委員会評価項目一覧

1　青少年の健全育成
（1）健全育成体制を充実する （2）健全育成活動を促進する
2　学校教育の充実
（1）学力を充実・向上する （2）心身ともに健やかな子どもを育成する （3）特別支援教育を推進する （4）市民参加で開かれた学校・園づくりを推進する （5）幼稚園教育を充実する （6）教育環境を整備・充実する
3　生涯学習の推進
（1）生涯学習を充実する （2）図書館活動を充実する （3）生涯学習施設を整備・充実する
4　文化財の保存・活用
（1）文化財を適切に保存し活用する （2）文化財の保護意識を高める
5　文化・スポーツ活動の推進
（1）文化活動を振興する （2）スポーツを振興する
6　生命の尊重・人権意識の高揚
（1）人権教育・人権啓発を推進する
7　教育委員会の運営改善
（1）教育委員会活動を充実する （2）教育委員会議を公開する

（２）点検・評価結果の構成

①評価対象

福知山市教育委員会事務点検及び評価実施要綱に基づき、福知山市教育委員会の事務・事業を７施策１８項目ごとに点検・評価を行いました。

②事業内容・実績・対象者等

各項目の目標達成に向けて、主に取り組んだ事業内容、実績及び対象を示しました。

③成果・課題等

教育上効果のあがった内容、成果及び課題等を示しました。

④内部評価

計画目標に対し、取り組みの進捗状況をふまえて自己内部評価を各事業に対して行い、総合評価を外部の方々の御意見を参考にしながら、Ａ～Ｄの４段階評価を行いました。

（評価判断基準）　Ａ・・・計画以上の成果が得られた。
　　　　　　　　　Ｂ・・・計画どおり目標は達成できた。
　　　　　　　　　Ｃ・・・課題があり、改善を要する。
　　　　　　　　　Ｄ・・・成果の点から休止又は廃止する事業である。

⑤担当課

事業を実施した担当課名を示しています。

（３）教育委員会事務点検・評価委員の意見・助言等

点検・評価に当たっては、教育に関し学識経験を有する方の御協力を得て、点検・評価会議を開催し、様々な意見や助言をいただきました。

委員名　（敬称略）

氏　名	所　属
足　立　正　夫	元：夜久野町教育長　　前：夜久野地域公民館長
池　田　廣　子	現：成美大学教授

開催期日　第１回　平成２４年　９月１１日
　　　　　第２回　平成２４年　９月２８日
　　　　　第３回　平成２４年１０月　５日
　　　　　第４回　平成２４年１０月３１日
　　　　　第５回　平成２４年１１月１６日

○点検・評価会議での主な意見・助言は次のとおり

・この点検・評価報告書は、議会に提出して広く公表するとともに、「今後どのように活かしていくのか」という報告書を作成する意義を常に考えながら事務事業に取り組んでいくことが大切である。
・今年度の点検・評価は２年目であり、前年度との比較をするとともに、前年度で終了した事業、今年度に変更や拡充等した事業、今年度から実施開始となった事業などがわかるように記載したほうが良い。
・新規事業には新規の事業を行った理由が必要であり、事業を統合したり廃止した時にも同様に理由が必要である。また、評価判断基準にＤ評価（休止または廃止する事業）があるにもかかわらず、前年度の評価がＤ評価でない事業を休止・廃止しているのはなぜなのかわからないので、評価にその旨を記載されることが望ましい。
・今年度の点検・評価を踏まえて、次年度に向けての課題やＢ評価からＡ評価にするためのポイントなども記載した評価にしたらどうか。
・今年度は前年度の課題に対してどのような取り組みをしたのかということを記載するとともに、次年度は今年度の取り組みをどのように継続・発展させるのかなどについても記載するようにしたら良い。
・評価の判断基準の適用に当たっては、前年度にも意見・助言したように、評価の根拠として、各施策で実施されている実態調査や学校評価など、各種の調査データも活用して評価されることが望ましい。
・点検・評価を次年度につなげていくためには、市民の関心や理解、連携・協力を得ていくことが欠かせないので、より一層の広報に努められたい。
・次年度以降の点検・評価においては、事務事業の評価は実施の有無を評価し、教育内容や教育指導の成果にかかる評価については、「学校教育の重点」「社会教育の重点」を基に行う必要があるのではないか。

○点検・評価を行った９８事業に係る内部評価の状況は下表のとおり

施策名＼評価	A		B		C		D		計	
事業年度	H22	H23	H22	H23	H22	H23	H22	H23	H22	H23
1．青少年の健全育成	0	2	13	11	0	0	0	0	13	13
2．学校教育の充実	12	6	45	46	0	0	0	0	57	52
3．生涯学習の推進	0	1	13	11	3	0	0	0	16	12
4．文化財の保存・活用	3	2	4	8	1	0	0	0	8	10
5．文化・スポーツ活動の推進	2	0	16	2	0	0	0	0	18	2
6．生命の尊重・人権意識の高揚	1	1	3	5	0	0	0	0	4	6
7．教育委員会の運営改善	0	0	3	3	0	0	0	0	3	3
計	18	12	97	86	4	0	0	0	119	98

（4）評価の結果

（注）

1. 事業内容・事業名の前の「（新）」とは、今年度からの新規事業、又は今年度から点検・評価を行った事業である。
2. 事業内容・事業名の下段の【　】は、25ページ以降の「（3）評価の詳細」に記載しているページを表す。

1 青少年の健全育成　2項目13事業【A評価2　B評価11　C評価0　D評価0】

項目	事業内容	実績・対象者・成果・課題等	内部評価		担当課等
			H22	H23	
①健全育成体制を充実する	○青少年健全育成 【PP25・27】	「家族だんらんの日」を提唱し、多くの団体とも連携し、市民総がかりで子どもを守る機運を一層高めることが出来た。	B	A	生涯学習課
	○心の教育実践活動 【PP25・27】	子どもを中心とした地域住民の交流が図れた。あいさつ運動は毎月1回実施され、地域の中で一定の定着を見ている。	B	B	生涯学習課
	○少年補導センター推進事業 【PP25・27】	補導委員の増員を行うとともに、地域の状況に応じた活動を展開した。	B	B	生涯学習課
	○こだま教育運動 【PP25・27】	「家族だんらんの日」に焦点化し、啓発リーフレットを全戸配付し多くの賞賛を得ることが出来た。	B	A	生涯学習課
	○早ね早おき朝ごはん＋ワン（読書）運動推進事業 【PP25・27】	学校、PTAとの連携により、全ての学校で実践された。	B	B	生涯学習課
	○勤労青少年ホーム 【PP25・27】	講座を開設するとともに、施設を提供した。高齢者の利用も増える中、今後の利用の検討が必要である。	B	B	生涯学習課
	（新）○公誠子ども教室 【PP25・27】	北陵地域の住民の協力のもとで開催した。	-	B	生涯学習課
	○成人式 【PP26・27】	新成人の多くが出席のもと、厳粛に挙行した。新成人や市民参画の企画が必要である。	B	B	生涯学習課
	○親子体験教室の開催 【PP26・27】	親子で体験できる教室（講座）を開催した。今後ともより多くの参加が可能となるよう創意工夫を図っていく。	B	B	公民館
	○各地域公民館における世代間交流事業の実施 【PP26・27】	高校生と小学生の交流や、地域内の子どもと大人との世代間交流をした。創意工夫を図る中で広範な参加が得られるように努めていく。	B	B	公民館
	○放課後まなび教室	公誠子ども教室に事業変更	B	―	生涯学習課
②健全育成活動を促進する	○子ども会育成事業 【P28】	キャンプや講習会等を実施・開催した。	B	B	生涯学習課
	○子ども大会 【P28】	幼・保育園から高校生までが主役として参加できる大きなイベントとして実施した。	B	B	生涯学習課
	○三岳青少年山の家管理運営事業 【P28】	健全経営に向けた支援・助言を行った。	B	B	生涯学習課

2　学校教育の充実　6項目52事業【A評価6　B評価46　C評価0　D評価0】

項目	事業内容	実績・対象者・成果・課題等	内部評価 H22	内部評価 H23	担当課等
①学力を充実・向上する	○文武向上プラン学校支援事業 【PP29・30】	各学校長の裁量により、各校の課題に即応した文武向上策の取り組みを実施した。 学校長の学校経営に対する意欲がより高まった。	A	A	学校教育課
	○「京の子ども夢・未来体験活動」推進事業 【PP29・30】	職場等での体験活動の取り組みを支援した。	B	B	学校教育課
	○教育関係研究大会運営事業 【PP29・30】	本市の教育実践（保健体育、へき地教育）を公開した。	B	B	学校教育課
	○AET配置活用事業 【PP29・30】	AETの配置により、英語教育並びに5・6年生必須の外国語活動を支援した。	B	B	学校教育課
	○総合的な学習研究活動推進事業 【PP29・30】	各小中学校の総合的な学習研究活動を支援した。	B	B	学校教育課
	○学校美術展事業、学校音楽祭事業 【PP29・30】	美術・音楽の成果発表で豊かな情操を培った。	B	B	学校教育課
	（新）○下村脩グランプリ事業 【PP29・30】	名誉市民・下村脩博士の功績を伝えるとともに理科への関心が高まった。	－	B	学校教育課
	○教育活動指導援助事業 ・小学校社会科副読本製作 ・けやき賞 ・研究発表会、教科別研修会 【PP29・30】	・昨年度は、新学習指導要領に対応するため社会科副読本をいち早く制作したが、本年度は増刷により対応した。 ・教師の優れた実践論文の表彰によって、教師の資質向上、本市教育の充実を図った。 ・福知山市学校教育振興会と共催して研究発表会を開催した。自校の取り組みや提言を織り交ぜた内容で若手教職員にとって、よい研鑽の場になった。	A	B	学校教育課
	○小中学校就学援助事業・特別支援就学奨励事業 【PP29・30】	経済的な事情で就学に支障を来たすことのないよう事業を実施した。 新たな支給項目として、クラブ活動費・生徒会費・PTA会費を追加した。	B	B	学校教育課
	○チャレンジ学習事業 【PP29・30】	基礎基本の徹底と主体的に学習に取り組む意欲と態度を身につけた生徒を育成する取組を実施した。	B	B	学校教育課
	○スクールアシスタント配置事業 【PP29・30】	教員の子どもと向き合う時間の確保と総実勤務時間の縮減を図ることができた。	A	A	学校教育課
	（新）○まなびのつながり強化推進事業 【PP29・30】	保幼小連携・小中連携・小小連携・小高連携など異校種間等の連携活動を実施した。	－	B	学校教育課
	（新）○学校図書館機能充実事業 【PP29・30】	学校図書館を中心として子どもが本に親しむ活動を展開した。	－	B	学校教育課
	○基礎学力定着事業 【PP29・30】	基礎学力の定着が必要な児童生徒に対して学力充実の取組を実施した。	B	B	学校教育課
	○授業力向上推進事業	まなびのつながり強化推進事業に統合	B	－	学校教育課
	○教科等研究専門員先進地視察事業	まなびのつながり強化推進事業に統合	B	－	学校教育課
	○中学校学力向上対策事業	チャレンジ学習事業に統合	B	－	学校教育課

②心身ともに健やかな子どもを育成する	○小学校移動教室事業 【PP31・32】	市内施設を利用して集団宿泊体験・野外活動体験を実施した。今後は要項改正も含め、効果的な取り組みを検討する必要がある。	B	B	学校教育課
	○心の安定基地つくり推進事業 【PP31・32】	「けやき広場」を核として、不登校児童生徒の学校復帰、並びにその傾向がある児童生徒を支援した。 学校・関係機関との連携強化やきめ細やかな対応ができ、総合事業としての体制が取れた。	A	A	学校教育課
	○子ども安全対策事業 【PP31・32】	子ども見守り活動の充実を図った。	B	B	学校教育課
	○学校保健事業 【PP31・32】	健康で安全な学校生活を推進した。	B	B	学校教育課
	○人権教育研修事業 【PP31・32】	様々な人権教育に関する研修会・研究大会等に教職員を派遣した。	B	B	学校教育課
	○人材育成支援事業 【PP31・32】	人権問題の早期解決を担う人材を育成するため支援金を支給し、進路実現の支援を行った。	B	B	学校教育課
	○入学一時金事業 【PP31・32】	就学が困難な高校生・大学生等に入学時に一時金を支給した。	B	B	学校教育課
	○家庭教育支援事業 【PP31・32】	学力課題や家庭の教育力に問題のある児童生徒・保護者に個別指導を行った。	B	B	学校教育課
	○中学校自転車通学助成事業 【PP31・32】	通学等に対する補助を行った。	B	B	学校教育課
	○中学校各種体育大会派遣等事業 【PP31・32】	}基礎的な体力向上と競技力の向上を図った。	A	B	学校教育課
	○体育振興事業 【PP31・32】	5競技で7人、近畿大会に出場した。	A	B	学校教育課
	○健康管理事業 【PP31・32】	児童生徒の疾病予防・治療指示を行い、健康増進を図った。	B	B	学校教育課
	○小学校遠距離通学費補助金 【PP31・32】	遠距離通学児童に対する補助を行った。	B	B	学校教育課
	○学校給食管理運営事業 【PP31・32】	4センターから29小中学校に年間180回、統一献立で提供した。また、栄養教諭等により、「食に関する指導」を実施した。	B	B	給食センター
	○学校安全対策事業	子ども安全対策事業に統合	B	―	学校教育課
	○高等学校生徒通学費補助金	市長部局担当の通学支援事業ができ廃止 (担当課:生活交通課)	B	―	学校教育課

③特別支援教育を推進する	○就学指導事業【P33】	適切な就学に向けて支援の充実に努めた。	B	B	学校教育課
	○スクールサポーター配置事業【P33】	担任だけではカバーできない部分を補助することで、きめ細かな指導実践が行えた。	A	A	学校教育課
	○発達障害早期支援事業【P33】	市内全園において就学前スクリーニングを実施した。 昨年度までは、スクリーニング、移行支援シートとも増加傾向であったが、ほぼ定着してきた。	A	B	学校教育課
	○特別支援教育総合推進事業【P33】	子どもを中心として、ライフステージや支援機関を超えた連携がスムーズに行えるようになった。 相談支援ファイルや保・幼から高校までの移行支援シートを作成した。	A	A	学校教育課
	○特別支援教育相談事業	心の安定基地つくり推進事業と統合	A	―	学校教育課
④市民参加で開かれた学校・園づくりを推進する	○教育のまちづくり推進事業【P34】	「家族だんらんの日」の啓発に向けて、ステッカーを作成、配布した。 冊子「学校教育改革推進プログラム」を作成・啓発・配布した。 「シームレス学園構想」啓発に向け、冊子を作成した。 3つの取り組み全て、今回は市民へのPRのための配布物作成を目標に掲げて取り組んだ。	A	B	教育総務課
	○いじめ根絶対策事業【P34】	中学校3校で「いのちの授業」を開催した。	B	B	学校教育課
	○特色ある学校づくり支援事業	文武向上プラン学校支援事業に統合	A	―	学校教育課
⑤幼稚園教育を充実する	○幼稚園施設設備改修事業【P35】	園児の円滑な園生活の確保が図れ、施設の安全対策を促進した。	B	B	教育総務課
	○幼稚園就園奨励費補助事業【P35】	保護者の経済的負担を軽減した。	B	B	教育総務課
	○幼稚園入園支度金【P35】	幼児(就学前)教育の振興に努めた。	B	B	教育総務課
	○幼稚園教育管理事業【P35】	芸術鑑賞や園児同士の交流を実施することにより健やかな成長に寄与した。	B	B	学校教育課
	○幼稚園ICT環境整備事業	平成22年度において事業完了	B	-	教育総務課

⑥教育環境を整備・充実する	○小学校耐震改修事業 【PP36・39】	各校にて耐震補強計画を促進した。	B	B	教育総務課
	○中学校耐震改修事業 【PP37・39】		B	B	教育総務課
	○小学校施設設備改修事業 【PP37・39】	プールにおいては、安全面・衛生面の向上が図れた。安全対策・バリアフリー化により、児童・生徒等の円滑な学校生活の確保が図れた。	B	B	教育総務課
	○中学校施設設備改修事業 【PP37・39】		B	B	教育総務課
	○配膳室整備事業 【PP37・39】	平成25年度からの中学校完全給食に向けた整備を行った。	B	B	教育総務課
	(新) ○(仮称)夜久野学園整備事業 【PP38・39】	平成24年度の(仮称)夜久野学園校舎建設に向けて準備をした。	-	B	教育総務課
	○小学校教育用コンピュータ等更新事業 【PP38・39】	情報教育を実施するに十分な性能をもったコンピュータや周辺機器の整備が図れた。	B	B	教育総務課
	○小・中学校図書整備事業 【PP38・39】	児童生徒の読書活動の充実に寄与するため計画的・継続的に整備が図れた。 (小713冊・中2,700冊)	B	B	教育総務課
	(新)○小・中学校教材備品購入事業 【PP38・39】	教育推進に必要な教材備品を購入した。	-	B	教育総務課
	(新)○小・中学校教師用教科書・指導書購入事業 【PP38・39】	新課程への移行関連等、子どもたちの教育に必要な教科書・指導書を整備した。 子どもたちの体力向上を目指して新しく体育の指導書を購入した。現場の要望に応えることで体育の指導を充実させた。	-	A	教育総務課
	○スクールバス管理運行 【PP38・39】	遠距離通学となる児童・生徒の安全安心な通学手段の支援をした。	B	B	教育総務課
	○スクールバス車庫整備事業 【PP38・39】	児童・生徒の通学手段となるスクールバスを安全に管理することができるようになった。	B	B	教育総務課
	(新) ○学齢簿システム整備事業 【PP38・39】	新システムを導入し、学籍管理及び就学援助に係る事務全般の効率化が図れた。	-	B	学校教育課
	○新学校給食センター建設事業 【PP38・39】	新センター建設、機械設備、電気設備、厨房備品購入についての契約を締結し、工事着工した。	B	B	給食センター
	○南陵中学校普通教室棟改築事業	平成22年度において事業完了	B	-	教育総務課
	○学校施設の安全対策・バリアフリー化事業	小・中学校施設設備改修事業にて対応	B	-	教育総務課
	○小中学校ICT環境整備事業	平成22年度において事業完了	B	-	教育総務課

3 生涯学習の推進　3項目12事業【A評価1 B評価11 C評価0 D評価0】

項目	事業内容	実績・対象者・成果・課題等	内部評価 H22	内部評価 H23	担当課等
①生涯学習を充実する	○生涯学習推進啓発事業【P40】	社会教育事業の総括資料として活用していく。	B	B	生涯学習課
	○社会教育委員会議【P40】	提言が提出された。また、社会教育事業に対する指導・助言を求めている。	B	B	生涯学習課
	○夜久野町生涯学習センター【P40】	生涯学習活動の拠点として有効活用が図れた。	B	B	生涯学習課
	○生涯学習推進事業	平成22年度において事業廃止	B	―	生涯学習課
②図書館活動を充実する	○資料収集整理事業【P41】	保存年限の経過した資料を提供し有効活用ができ、市民サービスにつながった。 システム統合のメリットを生かし、今後更に効率的で効果的な選書の工夫が必要である。	B	B	図書館
	○読書活動支援事業等【P41】	記念講演会は読書活動の啓発につながった。 読み聞かせ講座では、読書ボランティア活動者への普及・啓発が図れた。	B	B	図書館
	○中央館、三和・夜久野・大江分館運営事業【P41】	システム統合等、サービスの向上を図り、年間の総貸出冊数が、4館の総合計で前年より57,335冊増えた。 今後更に4館の一体的な運営を行い利用者の利便性の向上を図っていく。	B	A	図書館
	○情報センターの管理・運営事業	運営事業に統合	C	―	図書館
	○図書館システム統合事業	平成22年度において事業完了	B	―	図書館
	○図書館機能充実事業	平成22年度において事業完了	B	―	図書館
③生涯学習施設を整備・充実する	○中央・地域公民館講座等開催事業【P42】	地域の生涯学習を推進する社会教育の拠点施設として一定の実績を上げた。	B	B	公民館
	○地区公民館育成事業【P42】	新市移行後の経過を踏まえ、引き続き地区公民館に対し支援を行った。	B	B	公民館
	○公民館連絡会・連絡協議会開催【P42】	連絡会・主事会をほぼ毎月1回開催した。 今後は、より充実した活動にするため、意見交換や調査・研究に努める。	B	B	公民館
	○高齢者ボランティア活動推進事業【P42】	登録指導者の高齢化が進み活動の影響が懸念される中、次年度で新規の自主講座を開設することができ、講座の拡大に繋げた。	C	B	公民館
	○市民会館・市立公民館管理運営事業【P42】	公民館は交流(であい・ふれあい)活動を積極的に展開すべき役割をもつことから、各公民館施設等が連携を図りながら、円滑な管理運営に努めた。	B	B	公民館
	○公民館施設の整備・改修事業【P42】	老朽化が著しく、活動運営に支障を来たしているが、可能な限り修繕、改修に努めた。	C	B	公民館

4 文化財の保存・活用　2項目10事業【A評価2 B評価8 C評価0 D評価0】

項目	事業内容	実績・対象者・成果・課題等	内部評価 H22	内部評価 H23	担当課等
①文化財を適切に保存し活用する	○文化財の指定 【P43】	4件について文化財保護審議会による調査を経て市の文化財に指定した。	B	B	生涯学習課
	○文化財の保存・修理 【P43】	文化財修理保全の相談や指導・助言を行った。昨年度は指定文化財保全の懸案を解決でき大きな成果を得た。 文化財保全が困難な地域が増加しつつある。	A	B	生涯学習課
	○埋蔵文化財保護の行政指導 【P43】	埋蔵文化財包蔵地内での開発に対して、適切な事前協議・相談・指導を行った。 開発計画との迅速な調整、調査期間、調査費の負担に係わる協議が最も大きな課題である。	B	B	生涯学習課
	○埋蔵文化財の保存 【P43】	民間開発に伴う現状保存困難な発掘調査などを実施した。 整理・保管及び普及啓発を行う拠点の整備、確保が大きな課題である。	B	B	生涯学習課
	(新) ○天然記念物の調査・保護 【P43】	準備段階とし、実行委員会の調査推進体制の編成を中心に、情報提供と事業PRを兼ねた情報収集シートを作製した。	-	B	生涯学習課
②文化財の保護意識を高める	○文化財講座等の実施 【P44】	市民への文化財や発掘調査への理解、協力への周知を積極的に進めた。	B	B	生涯学習課
	○広報、情報の発信 【P44】	画像を多用した説明看板により、市民の文化財に対する愛護意識の啓発に努めた。 旧3町分の文化財図録補遺版を刊行した。 鬼伝説主体の資源を広くPRした。	C	B	生涯学習課
	(新) ○地域の伝承、文化普及事業 【P44】	「戦友」の顕彰歌碑をKTR大江駅前に移設・設置したほか、資料室も整備し一般公開を開始した。	-	A	生涯学習課
	○資料館の運営、展示、活用 【P44】	大江山の鬼、酒呑童子伝説を企画展、特別展、夜間開館を用いてPRに努め、またホームページにより情報提供を行った。 夜久野地域にある地質や化石について学習の機会を提供すると共に、農匠の郷やくの内の施設として活用とPRが行えた。	A	B	生涯学習課
	○国民文化祭京都2011ふくちやま 【P44】	京都府で開催されるに当たり、本市では「鬼」と「盆踊り」が選定され、10月30日から1ヶ月間に渡って実施された。 水木しげる氏が描いた鬼の絵を日本の鬼の交流博物館で特別展示し、約4,000人の集客を得た。 鬼シンポジウムでは、講演、鼎談、能「大江山」の開催等により、本市の鬼文化の情報を発信した。	A	A	生涯学習課

5 文化・スポーツ活動の推進　2項目2事業【A評価0 B評価2 C評価0 D評価0】

項目	事業内容	実績・対象者・成果・課題等	内部評価		担当課等
			H22	H23	
①文化活動を振興する	(新) ○学校施設の使用 【P45】	市民一人ひとりが文化活動に親しみ、心身ともに元気で活力ある生活を送っていただくことに寄与することができた。	－	B	教育総務課
	○生涯学習フェスティバル	平成22年度で事業廃止	B	－	生涯学習課
	○公民館活動との連携	平成22年度で事業廃止	B	－	生涯学習課
②スポーツを振興する	○学校施設の使用 【P46】	市民の体力づくりに寄与するとともに、生涯体育・スポーツの振興が図れた。	B	B	教育総務課

6 生命の尊重・人権意識の高揚　1項目6事業【A評価1 B評価5 C評価0 D評価0】

項目	事業内容	実績・対象者・成果・課題等	内部評価		担当課等
			H22	H23	
①人権教育・人権啓発を推進する	○差別を許さない人材育成事業 【PP47・48】	継続した事業参加による、子どもの主体的な事業運営ができるようになった。	B	B	生涯学習課
	(新) ○沖縄平和・人権文化体験研修事業 【PP47・48】　(隔年実施)	戦争の悲惨さ、平和の尊さについて、また沖縄に今なお残る様々な問題について自ら考える契機となった。 「長崎平和学習の旅」と連携して研修を進めた。 STAR事業との連携で人材育成が図れた。	－	B	生涯学習課
	○市民人権意識調査事業 【PP47・48】	平成22年度意識調査結果に基づき、従来の冊子に代え、人権問題毎に市民に分かりやすい啓発パンフレット(10種類)を初めて作成した。	A	A	生涯学習課
	○公民館・企業巡回人権教育講座事業 【PP47・48】	地区公民館等巡回人権教育講座は、参加者が固定化・高年齢化しており、新規参加・若年齢層の参加を増やしていく必要がある。 企業巡回人権教育講座は、企業ニーズに応じた啓発テーマの選定と企業の自主性を高めていくことが課題である。	B	B	生涯学習課
	○共に幸せを生きるまちづくり人権講座事業 【PP47・48】	さまざまな人権問題について正しく理解を深めるため、地域公民館だけでなくPTAと共催し、小中学校で講座を実施した。 若年層の参加拡大を図るため、保育園や幼稚園と連携した講座の実施を検討する。	B	B	生涯学習課
	(新) ○教育集会所学習活動事業 【PP47・48】　(人権推進室より所管替え)	人権学習会や文化交流活動を開催し、自由・平等で公正な社会づくりを進めた。	－	B	生涯学習課

7　教育委員会の運営改善　2項目3事業【A評価0　B評価3　C評価0　D評価0】

項目	事業内容	実績・対象者・成果・課題等	内部評価		担当課等
			H22	H23	
①教育委員会活動を充実する	○教育委員会の議事 【P49】	市民に信頼される開かれた教育委員会の運営を目指して取り組んだ。	B	B	教育総務課
	○教育委員会点検・評価 【P49】	報告書を作成することで、市民への説明責任を果たすとともに、市民に信頼される教育行政のより一層の推進に取り組んでいくきっかけとなった。	B	B	教育総務課
②教育委員会議を公開する	○委員会の広報及び公聴 【P50】	議事録は情報開示請求があった時に公開した。 今後は市民に広くお知らせする方法を検討していく必要がある。	B	B	教育総務課

7　おわりに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地教行法)」に基づく、福知山市教育委員会が行った教育に関する事務の点検・評価につきましては、学識経験者の幅広い見地からの貴重な御意見をいただきながら、平成２３年度では９８事業について実施しました。

平成２２年度で対象となった事業は１１９事業であり、平成２３年度では２１事業が減少したことになっています。これは、機構改革によりスポーツに関する事務（学校における体育に関することを除く）が教育委員会から市長事務部局に移管されたことが大きな要因ですが、その他には、事業の終了や、事業の見直しにより統合を行ったことによるためです。

また、平成２３年度で実施した９８事業の中で、「計画以上の成果が得られた（A評価)」と評価した事業は１２事業であり、平成２２年度と比較すると６事業の減少となりましたが、平成２２年度で４事業あった「課題があり、改善を要する（C評価)」は皆減となりました。A評価は減少したもののC評価が皆減となったことは、平成２２年度の点検・評価を踏まえ、総体的に改善に努めることができた成果であると考えています。

教育委員会の教育事務に関する「点検・評価」については、その結果を議会に報告し公表することにより、教育委員会の責任体制の明確化を図るものとして、地教行法に義務づけられています。福知山市教育委員会といたしましても、毎年の事務事業の結果を点検・評価したうえで、その改善策を検討しこれを実行に移すという、いわゆるＰＤＣＡサイクルの過程を公表していくことは、教育委員会の果たすべき役割とその意義を、広く市民の皆様に知っていただく絶好の機会であると捉えています。

今後もこの「点検・評価」により、自己の業務を振り返り更なる改善に努めるとともに、市民の皆様に対してより一層わかりやすく丁寧な説明を心がけ、市民の皆様とともに歩む教育行政の推進に取り組んでまいります。

8　資料　（1）教育委員会組織機構図

- 教育委員会
  - 教育委員会事務局
    - 教育総務課
      - 企画管理係
      - 施設整備係
      - 小学校（27校）
      - 中学校（9校）
      - 幼稚園（7園）
    - 学校教育課
      - 学務係
      - 教育指導係
        - 教育相談室
        - けやき広場
      - 保健体育係
    - 生涯学習課
      - 社会教育係
        - 勤労青少年ホーム
        - 教育研究室
        - 少年補導センター
        - 夜久野生涯学習センター
        - 夜久野町教育文化会館
        - 夜久野町文化コミュニティセンター
      - 文化財保護係
        - 三和町郷土資料館
        - 夜久野町化石・郷土資料館
        - 日本の鬼の交流博物館
        - 鬼文化研究所
        - 大江町真下飛泉資料館
      - 人権教育係
        - 教育集会所（10施設）
        - 下豊富会館
        - 大正文化センター
        - 新町コミュニティ会館
        - 金屋ふれあいセンター
        - 昭和集会所
  - 学校給食センター
    - 三和学校給食センター
    - 夜久野学校給食センター
    - 大江学校給食センター
  - 中央公民館
    - 地域公民館（8館）
    - 桃映地域体育館
  - 図書館中央館
    - 企画管理係
    - 図書係
    - 三和分館
    - 夜久野分館
    - 大江分館

（2）教育委員会事務分担表

教育総務課	委員会の議事及び秘書に関すること。 儀式及び表彰に関すること。 条例、規則等の制定、改廃等法制に関すること。 市費負担職員の人事、給与及び服務に関すること。 学校の設置、廃止及び認可に関すること。 学校施設の整備に関すること。 学校の教材、教具及び設備に関すること。 幼児の就園に関すること。 委員会の重要施策の総合調整及び統括に関すること。 委員会の予算の調整及び執行管理に関すること。 委員会の職員の研修及び能力開発に関すること。 委員会の主管事務に係る法制に関すること。 委員会の所管に係る財産管理の総括に関すること。 委員会の広報及び広聴に関すること。 分掌事務に係る教育行政に関する相談。 他課の主管に属しないこと。
学校教育課	府費負担教職員の人事、給与及び服務に関すること。 教職員の研修及び健康管理に関すること。 教職員の組織する職員団体に関すること。 学校教育の指導に関すること。 児童生徒の就学、その他学事に関すること。 高校生、大学生等の就学奨励及び修学奨励に関すること。 学校給食並びに学校保健体育及び安全に関すること。 分掌事務に係る教育行政に関する相談。 その他学校教育に関すること。
生涯学習課	生涯学習に関すること。 成人教育、青少年教育及び婦人教育に関すること。 人権教育に関すること。 社会教育施設の整備に関すること。 少年補導センターに関すること。 勤労青少年ホームに関すること。 三岳青少年山の家に関すること。 文化財保護に関すること。 文化財施設の整備に関すること。 ユネスコ活動に関すること。 分掌事務に係る教育行政に関する相談。 その他社会教育に関すること。
学校給食センター	学校給食センターの管理運営に関すること。 給食数の把握及び調理食数の指示に関すること。 給食用食材料費の支出事務及び給食費会計決算事務に関すること。
中央公民館	公民館の管理運営に関すること。 公民館の育成に関すること。 公民館講座に関すること。
図書館中央館	図書館の管理運営に関すること。 図書資料の選定・管理に関すること。 移動図書館の運行管理に関すること。

（３）評価の詳細

施策別評価

施策名	1 青少年の健全育成
方針	家庭と地域、学校が連携しながら、市民総がかりで次代を担う青少年が心豊かに安心して暮らせる環境づくりに努めるとともに、社会の一員として地域活動やボランティア活動に積極的に参加できるよう社会参加活動を支援する。また、「心の教育」、「家族だんらん」や「地域で子どもを育てよう」などをキーワードにした健全育成活動を促進するとともに、体制の充実を図ります。

項目	(1)健全育成体制を充実する	内部評価 H22	内部評価 H23
事業内容 実績 対象者等	**生涯学習課** ○青少年健全育成 ・青少年問題協議会を開催し、本市が進める青少年健全育成の行動計画を作成することでそれぞれの取り組み方針を確認した。 ・第52回青少年健全育成大会を開催した。大会では社会教育団体はもとより、これまで連携の無かった長田野企業体や自衛隊など45団体の賛同を得て「家族だんらんの日」の取り組みを開始することができたことは大きな成果である。また、今大会から初めて中学生による吹奏楽団や若者の参加が得られたことは若者の参加から参画に替わるきっかけとなる取り組みとなった。 ・「青少年を非行から守り健全に育てる運動」(内閣府主唱)、「青少年の非行・被害防止全国強調月間」(法務省主唱)に呼応して各種青少年育成団体に呼びかけ、市内各地で街頭啓発を実施した。	B	A
	○心の教育実践活動 ・「社会総がかりで子どもを育てよう」を実践テーマに、実践活動中央本部と各公民館ブロックの実行委員会が連携し、市域全域での取り組みとして活動を展開し、当初の目標が達成できた。	B	B
	○少年補導センター推進事業 ・ 街頭補導活動は年間延べ329回にわたり、97人の補導委員が昼間、夜間の愛の一声運動(3～5人体制)で、犯罪の未然防止活動に取り組み、当初の目標が達成できた。	B	B
	○こだま教育運動 ・掲示教育の推進により、当初の目標が達成できた。(現代的、地域的課題解決に向けた啓発文を月2回359箇所に掲示、推進員365人の協力を得ている。) ・家庭教育の啓発リーフレットとファイルは、今年度は「家族だんらんの日」のサブテーマの「君が好き！あなたが大事」を題材に、日ごろ伝えられない家族への感謝の気持ちを取り上げて作成し全戸配布した。市民の皆さんから大きな反響があり、賞賛を多くいただく事ができ、目標以上の成果が得られた。	B	A
	○早ね早おき朝ごはん＋ワン(読書)運動推進事業 ・市PTA連絡協議会と連携し各運動を展開し、事業目標は達成できた。 ・啓発誌の全戸配布を行った。	B	B
	○勤労青少年ホーム ・勤労青少年が教養を高め、健康増進を図るとともに、仲間づくりの場を提供することを目的に講座の開設や施設の提供を行った。 ・講座開設数 10講座154回、延べ受講者数 1,193人	B	B
	○公誠子ども教室 ・国の提唱する「放課後子どもプラン」を推進するため、公誠地域の住民で構成された「公誠まなびの教室運営委員会」と連携し、休校中の公誠小学校区在住の児童に対し、放課後等における安全で健やかな居場所づくりを実施した。 対象児童21人　延べ1,929人	ー	B

○成人式 B B

・「新成人の主張」を実施し、代表者2名により抱負や決意が発表された。

・オープニング行事として、中学校吹奏楽部による演奏を行い、青少年の新成人を祝おうという思いや、若者を巻き込んだ参画事業について好評をいただいた。

・式典時に配布する新成人への「お祝いメッセージ」は対象者の卒業校（小・中学校・高校）の恩師からのメッセージを掲載し、新成人から好評価をいただいた。

・対象者数798人　出席者数656人　出席率82.2%

公民館

○親子体験教室の開催 B B

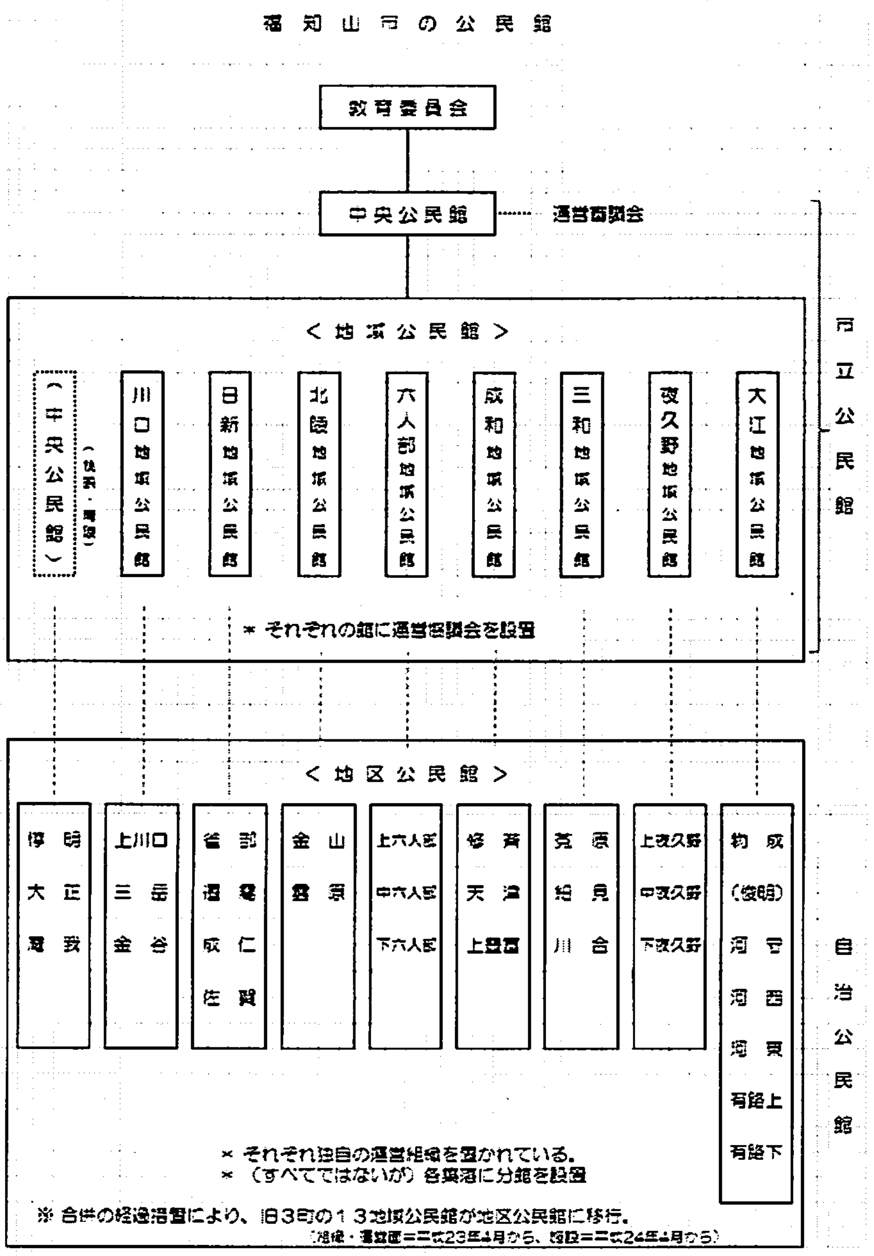
・中央公民館及び各地域公民館において親子で体験できる教室（講座）を開催した。

○各地域公民館における世代間交流事業の実施 B B

・地域内の各世代間の交流を図る取り組みとして「花いっぱい運動」を実施し、花の苗の植栽を行った。

・府立工業高校の協力により、小学生に動くおもちゃの製作を指導した。

※公民館組織の体型は下記分類のとおり



<table>
<tr><td>成果
課題等</td><td colspan="2">生涯学習課
○青少年健全育成
・「家族だんらんの日」の取り組みの定着を図るとともに、市民総がかりで子どもを守り育てる機運を一層高める。
・健全育成大会では、小中学生による「少年の主張」について、貴重な発表の機会となった。
○ 心の教育実践活動
・各ブロックの実践活動を通じて、子どもを中心とした地域住民の交流が図られた。
・あいさつ運動は毎月1回実施され、地域の中で一定の定着を見ている。また、実践活動発表会はそれぞれの地域での特性ある活動の公開の場であり、今後に継続する重要性を確認することができた。
○少年補導センター推進事業
・補導委員体制の強化のために補導委員の増員を行うとともに、各ブロックでは地域の状況に応じた活動を展開した。
○こだま教育運動
・掲示教育において、地域づくり、環境、人権等の啓発文を掲示し、全国に誇れる教育のまちづくりの実践活動を継続して展開した。
・現代的課題である「次代を担う青少年の健全育成」の重要性に視点をあて、家庭、学校、地域社会が連携して取組みを進め、「君が好き!あなたが大事」をスローガンに、心にせまる内容を更に充実することができた。
○早ね早おき朝ごはん+ワン(読書)運動推進事業
・学校、PTAとの連携により、すべての学校で実践された。
・教育委員会とPTAとの情報交換・連携協力の担当部署である教育研究室の位置づけを明確にし、更なる情報交流に努める必要がある。
○勤労青少年ホーム
・勤労青少年の健全な余暇活動の場を提供することを目的に建設されたが、現在は、高齢者等の利用が多く、目的が達成されたことにより、今後の利用の検討が必要である。
○公誠子ども教室
・北陵地域の住民の協力のもとで、旧北陵中学校で開催した。
○成人式
・新成人の対象者の多くが出席され、厳粛に挙行することができた。
・今後、新成人自身や市民に参画してもらえるような企画が必要である。
公民館
○親子体験教室の開催
・中央公民館で親子体験教室を3回開催。昨年度と比べ参加人数の増減はあったが、全体的には目標達成が図れた。
・親子が一緒になって学習したり共同作業を行うことで、親子の絆を深め、子どもの健全な育成につなげていくことを目標としており、今後ともより多くの参加が可能となるよう、創意工夫を図っていきたい。
○各地域公民館における世代間交流事業の実施
・地元の高校との連携による高校生と小学生の交流や地域内における子どもと大人との世代間の交流ができ、参加者にとって貴重な体験となった。また、計画したそれぞれの取り組みも予定どおり実施できた。
・地域の活性化と交流につなげることであり、創意工夫を図る中で、広範な参加が得られるように努める。
・世代間交流は青少年の健全育成、地域の活性化につながることで重要なことであり、より広範な参加が図れるように努める。</td></tr>
<tr><td>内部総合評価</td><td>生涯B
(H22 B)
公民館B
(H22 B)</td><td>年度当初の事業目標が達成できた。

当初の目標はほぼ予定通り達成できた。
今後は参加者の拡大に向け、市民ニーズの把握や積極的な広報活動等に努める。</td></tr>
<tr><td>担当課</td><td colspan="2">生涯学習課　公民館</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">項目</td><td rowspan="2">(2)健全育成活動を促進する</td><td colspan="2">内部評価</td></tr>
<tr><td>H22</td><td>H23</td></tr>
<tr><td>事業内容
実績
対象者等</td><td>生涯学習課
○子ども会育成事業
・いきいき探検隊キャンプ(参加者47名、スタッフ33名)
・中央公民館文化祭模擬店運営(参加者11名　スタッフ5名)
・応急手当・救命技能講習・テント組立講習(参加者17名)
・秋季スポーツ大会(参加者18名、スタッフ12名)
・人権研修会(STAR研修会)への参加
上記イベント等を開催することができ、事業の目標は達成できた。
○子ども大会
・安全で自主的なふれあいのある遊び場を提供した。(三段池体育館周辺)
・東日本大震災復興支援のため、いきいき探検隊と淑徳高等学校生徒会で募金活動を行い、お祭りコーナーの売上金とともに義援金として日本赤十字社へ届けた。約4,000人の参加であった。
○三岳青少年山の家管理運営事業
・管理運営委員会への運営補助を行うとともに、健全経営に向けた取り組みに対する支援、助言を行うことができた。
・近年、青少年の利用者数が減少の傾向にあり、利用者数3,478人(前年3,937人)でキャンプ場の利用は120人であった。</td><td>B
B
B</td><td>B
B
B</td></tr>
<tr><td>成果
課題等</td><td colspan="3">生涯学習課
○子ども会育成事業
・子どもの減少により、子ども会の運営ができないため休会する団体が増加し、指導者連絡協議会の運営にも影響を及ぼしている。
○子ども大会
・多くの協力団体の支援のもと、幼保育園児から高校生までが主役として参加できる、大きなイベントとして継続して実施した。
・小学生が大会の司会や募金活動を行うなど積極的な活動を展開できた。
・高校生ボランティアと協力して震災復興支援を行うことができた。
○三岳青少年山の家管理運営事業
・キャンプ場の使用は昨年度(71人)より増加したが、全体として青少年活動としての利用が年々減少傾向にある。</td></tr>
<tr><td>内部総合評価</td><td>B
(H22 B)</td><td colspan="2">年度当初の事業目標が達成できた。</td></tr>
<tr><td>担当課</td><td colspan="3">生涯学習課</td></tr>
</table>

施策別評価

施策名	2 学校教育の充実
方針	基礎・基本の徹底を図るとともに、「生きる力」を育むカリキュラムの実現を目指し、「特色のある教育・学校づくり」のもと、子どもの可能性を引き出す教育内容の充実や豊かな国際感覚と郷土愛を育む取り組みを推進します。

項目	(1)学力を充実・向上する	内部評価 H22	内部評価 H23
事業内容 実績 対象者等	**学校教育課**		
	○文武向上プラン学校支援事業 ・各小中学校の文武向上プランの取組に補助金を支出した。 補助金総額 6,801,500円	A	A
	○「京の子ども夢・未来体験活動」推進事業 ・1学級あたりの補助上限額の範囲内で補助金を支出した。	B	B
	○教育関係研究大会運営事業 ・京都府小学校教育研究大会(保健体育)、近畿へき地教育研究大会を開催した。	B	B
	○AET配置活用事業 ・委託により6人のAETを小中学校に配置した。	B	B
	○総合的な学習研究活動推進事業 ・1学級あたり8,600円を補助した。	B	B
	○学校美術展事業、学校音楽祭事業 ・学校美術展、学校音楽祭を開催した。	B	B
	○下村脩グランプリ事業 ・ノーベル化学賞を受賞した本市出身、下村氏の思いを伝えるため、理科作品を募った。	—	B
	○教育活動指導援助事業 ・小学校社会科副読本増刷、教職員研修会を開催した。	A	B
	○小中学校就学援助事業・特別支援就学奨励事業 ・経済的理由による不就学を防ぐため、就学に必要な学用品費等の援助を行った。	B	B
	○チャレンジ学習事業 ・各種検定への取組を活用しながら主体的に学習に取り組む意欲の向上を図った。 ・中学1年生を対象に学力診断テストを実施した。	B	B
	○スクールアシスタント配置事業 ・1学年2学級以上の学年がある小学校及び全中学校に配置した。	A	A
	○まなびのつながり強化推進事業 ・就学前幼児対象体験入学会を開催した。 ・教科等研究専門員先進地視察を実施した。 ・異校種間の連携活動を実施した。	—	B
	○学校図書館機能充実事業 ・全小中学校に司書教諭補助員を配置した。	—	B
	○基礎学力定着事業 ・各小中学校において、基礎学力の定着が必要な児童生徒に対して、学力充実の取組みを支援した。	B	B

成果 課題等	**学校教育課** ○文武向上プラン学校支援事業 ・各小中学校の文武向上プランの取組に補助金を支出し支援した。 ・自主性を尊重し、学校長の裁量により各校の課題に即応した文武向上策を企画立案でき、学校長の学校経営に対する意欲がより高まった。 ○「京の子ども夢・未来体験活動」推進事業 ・職業に関する知識を身につけるなどのキャリア教育を推進するため、小学4年生・中学2年生を対象に職場等での体験活動の取り組みを支援した。 ・京都府の要綱改正により、より伝統文化体験が重要視されるとともに、補助率も3分の2となった。 ○教育関係研究大会運営事業 ・府内各地域より多数の参加者を得て、本市の教育実践（保健体育、へき地教育）を公開した。 ○AET配置活用事業 ・全中学校及び小学校に、AET（英語指導助手）6人を配置し、英語教育、並びに5、6年生に必須化された外国語活動を支援した。 ○総合的な学習研究活動推進事業 ・各小中学校の総合的な学習の研究活動に対し補助金を支出し支援した。 ○学校美術展事業、学校音楽祭事業 ・美術や音楽の成果を発表することで豊かな情操を培った。 ○下村脩グランプリ事業 ・継続的な作品を募ることによって、理科への関心が高まると共に将来の夢の実現に寄与できた。 ○教育活動指導援助事業 ・小学校社会科副読本の増刷、教職員研修会の開催など本市教育の基盤となる活動を実施した。 ・昨年度は、新学習指導要領に対応するため社会科副読本をいち早く制作したが、本年度は増刷により対応した。 ○小中学校就学援助事業・特別支援就学奨励事業 ・経済的な事情で就学に支障をきたすことのないよう事業を実施した。 ・平成23年度は、新たな支給項目として準要保護世帯にクラブ活動費、生徒会費、PTA会費を追加した。 ○チャレンジ学習事業 ・基礎基本の徹底と主体的に学習に取組む意欲と態度を身につけた生徒を育成する取組を全中学校で実施した。 ・中学1年生を対象に学力診断テストを実施し、今後の指導に役立てた。 ○スクールアシスタント配置事業 ・教員の子どもと向き合う時間の確保と総実勤務時間の縮減を図った。 ○まなびのつながり強化推進事業 ・保幼小連携、小中連携、小小連携、小高連携など異校種間等の連携活動を実施した。 ○学校図書館機能充実事業 ・学校図書館を中心として子どもが本に親しむ活動が展開できた。 ○基礎学力定着事業 ・各小・中学校において、基礎学力の定着が必要な児童生徒に対して、学力充実の取組を実施した。	
内部総合評価	B (H22 B)	文武向上プラン学校支援事業、スクールアシスタント配置事業については、計画以上の成果を得たものとしてA評価とした。その他の事業はB評価とし、総合的には計画どおり目標は達成できた。
担当課	学校教育課	

項目	(2)心身ともに健やかな子どもを育成する	内部評価 H22	内部評価 H23
	学校教育課		
事業内容 実績 対象者等	○小学校移動教室事業 ・市内宿泊施設を活用した宿泊体験学習にかかる経費の一部を負担した。	B	B
	○心の安定基地つくり推進事業 ・不登校総合対策事業として「心の安定基地」つくりを推進し、不登校児童生徒への支援を行った。 ・臨床心理士2名を配置し、特別支援に関する相談業務や就学指導にあたる教員の指導にあたった。	A	A
	○子ども安全対策事業 ・幼稚園・小学校・中学校に学校安全支援補助金を交付した。 ・子ども安全対策連絡協議会では総会や子ども・地域安全セミナーを開催し、子どもの安全を守るための活動を実施した。	B	B
	○学校保健事業 ・学校保健研究大会等を実施した。224名の参加者があった。	B	B
	○人権教育研修事業 ・人権教育にかかる各種の研修会等に教職員が参加した。	B	B
	○人材育成支援事業 ・人材育成支援金を118人(前年度145人)に支給した。	B	B
	○入学一時金支給事業 ・入学一時金を34人(前年度64人)に支給した。	B	B
	○家庭教育支援事業 ・学力等に課題のある児童生徒と保護者を支援した。	B	B
	○中学校自転車通学助成事業 ・自転車通学補助は5中学校で18人に支給した。 ・自転車ヘルメット補助(一般)は6中学校で116人に支給した。 ・自転車ヘルメット補助(要・準)は4中学校で18人に支給した。	B	B
	○中学校各種体育大会派遣等事業 ・5競技で7人の近畿大会出場があった。 ・昨年と比較すると京都大会、近畿大会への出場が約3割減少した。	A	B
	○体育振興事業 ・児童生徒が大会に安全に参加できるようにした。(スクールバスの運行)	A	B
	○健康管理事業 ・定期健康診断等を実施した。 ・就学時健康診断を実施した。	B	B
	○小学校遠距離通学費補助金 ・2小学校で20人に支給した。(精華小・明正小)	B	B
	給食センター		
	○学校給食管理運営事業	B	B

成果 課題等	**学校教育課** ○小学校移動教室事業 ・6校が市内施設を利用して、集団宿泊体験、野外活動体験を実施した。多くの小学校が市外施設を利用したため、本事業対象外となっている。要項改正も含め効果的な取り組みを検討する必要がある。 ○心の安定基地つくり推進事業 ・不登校児童生徒の減少、並びにその傾向がある児童生徒を支援し、全ての児童生徒が希望を持って登校できる学校とするため、不登校傾向の児童生徒が通う適応指導教室「けやき広場」を核に、不登校総合対策事業として「心の安定基地」つくりを推進できた。 ・訪問指導専門員や訪問指導員、不登校対策コーディネーターの配置などにより、市適応指導教室と学校、また関係機関との連携強化やきめ細やかな対応ができ、総合事業としての体制が取れた。 ・児童生徒を取り巻く状況が複雑多様化しており、不登校状況の改善には、多角的な対応を要するため、多方面の連携が必要となり、容易ではない。 ・不登校児童生徒数（平成20年度:98人・平成21年度:69人・平成22年度58人・平成23年度60人） ○子ども安全対策事業 ・子ども安全対策連絡協議会を開催、研修会の実施による子ども見守り活動の充実を図った。 ・子ども安全対策連絡協議会では代表者会議だけでなく、幹事会を開催し情報を共有化したり交流を深めるよう工夫した取組を実施した。 ○学校保健事業 ・学校保健の研究並びに普及向上を図り、健康で安全な学校生活を推進した。 ・学校保健研究大会では、東日本大震災の教訓として「防災」をテーマに講演会を実施した。 ○人権教育研修事業 ・学校における人権教育の推進と教職員の人権問題に対する資質の向上を図るため、さまざまな人権教育に関する研修会・研究大会等に教職員を派遣した。 ○人材育成支援事業 ・人権問題の早期解決を担う人材を育成するため高校生・大学生等に対し支援金を支給し進路実現の支援を図ることができた。 ○入学一時金支給事業 ・経済的な理由により就学が困難な高校生・大学生等に入学時に入学一時金を支給できた。 ○家庭教育支援事業 ・学力課題や家庭の教育力に問題のある児童生徒及びその保護者に勤務時間外に個別指導を行うことができた。 ○中学校自転車通学助成事業 ・通学等に対する補助も教育環境の整備から積極的に推進した。 ○中学校各種体育大会派遣等事業　○体育振興事業 ・発達段階に応じた各種体育大会に参加し、基礎的な体力向上と競技力の向上を図った。 ○健康管理事業 ・児童生徒の疾病予防・治療指示を行い、健康増進を図った。 ・就学時健診の方法を、学校の負担を少なくするために補助員を確保し工夫した取組を実施した。 ○小学校遠距離通学費補助金 ・通学等に対する補助も教育環境の整備から積極的に推進した。 **給食センター** ○学校給食管理運営事業 ・計画どおり4学校給食センターから、市内29小中学校に、年間180回（米飯給食4回／週、パン給食1回／週）の学校給食を、統一献立で提供した。 ・栄養教諭等により、市内の完全給食実施校29校の全学級を対象に、「食に関する指導」を実施した。	
内部総合評価	学教B （H22 B）	心の安定基地つくり推進事業、中学校各種体育大会派遣等事業、体育振興事業については、計画以上の成果を得たものとしてA評価とした。その他の事業はB評価とし、総合的には計画どおり目標は達成できた。
	給食B （H22 B）	計画どおり学校給食を統一献立で提供でき、また、「食に関する指導」も実施できたことにより、年度当初の目標は達成できた。
担当課	学校教育課　給食センター	

項目	(3)特別支援教育を推進する	内部評価 H22	内部評価 H23
事業内容 実績 対象者等	**学校教育課** ○就学指導事業 ・特別支援教育に対する相談や支援に携わる教員の専門性の向上を図った。	B	B
	○スクールサポーター配置事業 ・きめ細かな教科指導や生徒指導を行うため、指導補助者を配置した。	A	A
	○発達障害早期支援事業 ・発達障害のある幼児の早期発見、早期支援に取り組んだ。	A	B
	○特別支援教育総合推進事業 ・医療、保健、福祉、就労、教育に携わる者が連携して発達障害児、者の生涯にわたる一貫した支援の在り方を検討した。	A	A

成果 課題等	
	学校教育課 ○就学指導事業 ・特別支援教育コーディネーターによる特別支援学級設置校訪問や就学相談など、指導内容や適切な就学に向けて支援の充実に努めた。 ○スクールサポーター配置事業 ・発達障害等のある児童生徒をサポートするなど、担任だけではカバーできない部分を補助することにより、よりきめ細かな指導実践を行うことができた。 ・配置に当たっては、各校の要望に応じ、指導主事、市特別支援コーディネーターの意見を参考に、平成23年度は、小学校18校、中学校7校に37人を配置した。 ○発達障害早期支援事業 ・就学指導委員会や"のびのび福知っ子"の関係機関と連携を図りながら、市内全園において就学前スクリーニングを実施することができた。 ・移行支援シートを活用した円滑な就学について、保育園・幼稚園・小学校・保護者とのスムーズな連携体制が定着してきた。 ・昨年度までは、スクリーニング、移行支援シートとも増加傾向であったが、ほぼ定着してきた。 ○特別支援教育総合推進事業 ・発達障害児、者への支援の状況やニーズについて関係機関において相互理解が進み、子どもを中心として、ライフステージや支援機関を超えた連携がスムーズに行えるようになった。 ・保健・福祉・医療・就労・教育が連携する「特別支援福知山市連携協議会」を組織し、相談支援ファイルや移行期における移行支援シート(保幼→小学校→中学校→高等学校)が作成できた。また、社会参加支援シートも作成した。 ・思春期入り口で行う子どもの困り感や発達障害のスクリーニング調査により、二次障害の防止や校内外の支援連携体制の推進につながった。

内部総合評価		
	A (H22 A)	就学指導事業、発達障害早期支援事業については、計画どおり目標は達成できた。その他の事業は計画以上の成果を得たものとしてA評価とした。よって、総合的には、A評価とした。
担当課	学校教育課	

<table>
<tr><td rowspan="2">項目</td><td rowspan="2" colspan="2">(4)市民参加で開かれた学校・園づくりを推進する</td><td colspan="2">内部評価</td></tr>
<tr><td>H22</td><td>H23</td></tr>
<tr><td>事業内容
実績
対象者等</td><td colspan="2">教育総務課
○教育のまちづくり推進事業
・「家族だんらんの日」を推進、啓発するためステッカーを作成
作成数:13,500枚　全経費196,749円
・学校教育推進のため、冊子「学校教育改革推進プログラム」の作成
作成数:9,000部　全経費105,840円
・幼小中一貫・連携教育の推進、啓発のため、冊子「シームレス学園構想」の作成
作成数:10,000部　全経費94,500円

学校教育課
○いじめ根絶対策事業
・3中学校(六人部・三和・大江)において「いのちの授業」を実施した。</td><td>A

B</td><td>B

B</td></tr>
<tr><td>成果
課題等</td><td colspan="4">教育総務課
○教育のまちづくり推進事業
・市民総がかりの教育の推進にスローガン「家族だんらんの日」の設定と推進方法を協議し、啓発に向けてステッカーを作成、配布することができた。
・学校教育推進のための冊子「学校教育改革推進プログラム」を作成・啓発・配布することができた。
・「シームレス学園構想」を策定し、啓発に向け冊子を作成することができた。
・3つの取り組み全て、今回は市民へのPRのための配布物作成を目標に掲げて取り組んだ。

学校教育課
○いじめ根絶対策事業
・自尊意識を育み、自分の命はもとより他人の命の大切さについて考えることができた。
・2カ年計画の最終年度として、中学校3校において、命の大切さについて問いかける「いのちの授業」が開催できた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">内部総合評価</td><td>教総B
(H22 A)</td><td colspan="3">配布物を作成することができ、計画どおり目標は達成できた。</td></tr>
<tr><td>学教B
(H22 B)</td><td colspan="3">計画以上の成果を得たものもあるが、計画どおり目標は達成できた。</td></tr>
<tr><td>担当課</td><td colspan="4">教育総務課　学校教育課</td></tr>
</table>

項目	(5)幼稚園教育を充実する	内部評価 H22	内部評価 H23
事業内容 実績 対象者等	**教育総務課** 〇幼稚園施設設備改修事業 ・成仁幼稚園壁面塗装工事　事業費:3,581千円　完成:平成23年9月 （平成22年度からの繰越事業） ・大正幼稚園遊具更新工事　事業費:651千円　完成:平成23年4月 ・成仁幼稚園フェンス設置工事　事業費:714千円　完成:平成23年6月	B	B
	〇幼稚園就園奨励費補助事業 幼稚園に子どもを通わせる世帯の所得状況に応じて、公立幼稚園においては保育料を減免し、私立幼稚園においては、入園料及び保育料を減免される幼稚園設置者に対して、就園奨励費補助金を交付 公立幼稚園:対象世帯　16件　減免額　1,274,000円 私立幼稚園:対象世帯　180件　補助額　17,505,400円 （聖テレジア幼稚園7,773,600円　小さき花幼稚園9,731,800円）	B	B
	〇幼稚園入園支度金 市内の幼稚園に入園する幼児の保護者で、経済的理由により入園の支度が困難な者（生活保護家庭等）に対して支援 支度金:保育園にも幼稚園にも就園したことのない場合12,000円 以前に保育園か幼稚園に就園したことのある場合6,000円 実績:支度金受給者4人・支度金合計36,000円（12,000円×2人　6,000円×2人）	B	B
	学校教育課 〇幼稚園教育管理事業 ・園児のつどいを開催した。	B	B
成果 課題等	**教育総務課** 〇幼稚園施設設備改修事業 ・施設設備改修工事で、園児の円滑な園生活の確保が図れ、施設の安全対策が促進できた。 〇幼稚園就園奨励費補助事業 ・幼稚園に子どもを通わせる保護者の経済的負担を軽減することができた。 〇幼稚園入園支度金 ・市内の幼稚園に入園する幼児の保護者で、経済的理由により入園の支度が困難な方々に対して支度金を交付した。 ・この支援により生涯学習社会の基盤を培う幼児（就学前）教育の振興に努めることができた。 **学校教育課** 〇幼稚園教育管理事業 ・幼稚園だけでは体験しにくい芸術鑑賞や同年齢の園児と親しみ一緒に活動することにより園児の健やかな成長に寄与した。		
内部総合評価	教総B （H22 B） どの事業も計画どおり目標は達成できた。 学教B （H22 B） 計画どおり目標は達成できた。		
担当課	教育総務課　学校教育課		

項目	(6)教育環境を整備・充実する	内部評価 H22	内部評価 H23
事業内容 実績 対象者等	**教育総務課** ○小学校耐震改修事業 **平成23年度末の耐震化率 69.0%** **・小学校67.1%(校舎62.7% 体育館76.9%)** **・中学校78.4%(校舎78.6% 体育館77.8%)** **・幼稚園42.9%** 【耐震診断業務(判定委員会含む)】 ・惇明小学校教室棟耐震診断業務 事業費:1,418千円 完了:平成23年12月 ・昭和小学校普通教室棟耐震診断業務 事業費:3,696千円 完了:平成24年2月 ・雀部小学校管理棟耐震診断業 事業費:3,119千円 完了:平成23年12月 ・雀部小学校屋内運動場耐震診断業務 事業費:1,764千円 完了:平成24年1月 ・三岳小学校管理棟耐震診断業務 事業費:1,783千円 完了:平成24年2月 ・成仁小学校管理棟耐震診断業務 事業費:1,670千円 完了:平成24年3月 ・美鈴小学校屋内運動場耐震診断業務 事業費:1,817千円 完了:平成24年3月 (平成22年度からの繰越事業) ・細見小学校管理棟耐震診断業務 事業費1,575千円 完了:平成23年11月 ・精華小学校校舎棟他耐震診断業務 事業費3,497千円 完了:平成24年1月 ・美河小学校屋内運動場耐震診断業務 事業費1,712千円 完了:平成23年4月 【実施設計業務】 ・惇明小学校屋内運動場耐震改修に伴う実施設計業務 事業費:919千円 完了:平成23年12月 ・昭和小学校教室棟耐震改修に伴う実施設計業務 事業費:1,974千円 完了:平成24年3月 ・上六人部小学校管理棟耐震改修に伴う実施設計業務 事業費:1,103千円 完了:平成23年10月 ・細見小学校管理棟耐震改修に伴う実施設計業務 事業費:1,024千円 完了:平成24年3月 ・美河小学校教室棟・屋内運動場耐震改修に伴う実施設計業務 事業費:5,821千円 完了:平成24年1月 【耐震改修工事】 ・惇明小学校教室棟耐震改修工事 事業費:70,870千円 完成:平成23年9月 ・大正小学校管理棟耐震改修工事 事業費:22,974千円 完成:平成23年9月 ・育英小学校屋内運動場耐震改修工事 事業費:22,953千円 完成:平成23年9月 (平成24年度へ繰越) ・昭和小学校特別教室棟耐震診断業務 事業費:2,573千円 ・上豊富小学校屋内運動場耐震診断業務 事業費:1,596千円 ・下六人部小学校教室棟他耐震診断業務 事業費:2,562千円 ・有仁小学校校舎棟耐震診断業務 事業費:3,308千円 ・有仁小学校屋内運動場耐震診断業務 事業費:1,334千円 ・美鈴小学校校舎棟耐震診断業務 事業費:2,100千円	B	B

	○中学校耐震改修事業 【耐震診断業務(判定委員会含む)】 ・桃映中学校管理棟耐震診断業務 　事業費:1,920千円　　　完了:平成23年12月 ・南陵中学校管理棟耐震診断業務 　事業費:1,817千円　　　完了:平成24年3月 ・日新中学校管理棟耐震診断業務 　事業費:2,447千円　　　完了:平成24年3月 (平成22年度からの繰越事業) ・南陵中学校特別教室棟耐震診断業務　事業費2,058千円　完了:平成23年6月 【耐震補強工事】 ・日新中学校教室棟耐震改修工事 　事業費:1,974千円　　　完成:平成23年7月	B	B
	○小学校施設設備改修事業 【学校プール改修事業】 ・惇明小学校プール防音壁改修工事 　事業費:1,050千円　　　完成:平成24年1月 ・天津小学校プールグレーチング取替工事 　事業費:924千円　　　完成:平成23年7月 ・金谷小学校プール便所水洗化工事 　事業費:2,310千円　　　完成:平成23年11月 【安全対策、バリアフリー化事業】 ・大正小学校グラウンド防球フェンス新設工事 　事業費:5,502千円　　　完成:平成24年3月 ・精華小学校埋設排水管改修工事 　事業費:4,067千円　　　完成:平成23年10月 (平成22年度からの繰越事業) ・惇明小学校防球フェンス増設他工事　事業費3,805千円　完成:平成23年5月 【その他の施設整備】 事業費総計15,011千円 ・惇明小学校管理棟給水管改修工事　完成:平成23年10月 ・昭和小学校中校舎受水槽揚水ポンプ取替工事　完成:平成23年9月 ・昭和小学校管理棟正面玄関改修工事　完成:平成24年3月 ・成仁小学校教室棟屋上防水改修工事　完成:平成23年9月 ・成仁小学校駐車場整備工事　完成:平成24年3月 ・川合小学校少量危険物庫改修工事　完成:平成24年1月 ・美河小学校少量危険物庫改修工事　完成:平成24年3月 ・有仁小学校引込設備改修工事　完成:平成23年8月 (平成22年度からの繰越事業) ・大正小学校駐輪場設置工事　事業費525千円　完成:平成23年4月	B	B
	○中学校施設設備改修事業 【安全対策、バリアフリー化事業】 ・日新中学校教室棟便所改修工事 　事業費:8,872千円　　　完成:平成23年9月 (平成22年度からの繰越事業) ・桃映中学校段差解消他工事　事業費10,658千円　完成:平成23年6月 【その他の施設整備】 ・桃映中学校管理棟屋上防水改修工事 　事業費:7,434千円　　　完成:平成23年10月	B	B
	○配膳室整備事業 ・南陵中学校配膳室整備工事 　事業費:17,315千円　　　完成:平成23年11月	B	B

	・日新中学校配膳室整備工事 　事業費25,358千円　　　　　完成:平成24年3月		
	○(仮称)夜久野学園整備事業 ・(仮称)夜久野学園整備に係る実施設計業務 　事業費:7,770千円　　　　　完了:平成24年3月	-	B
	○小学校教育用コンピュータ等更新事業 ・PC教室機器更新(22繰23)　　事業費　2,104,830円 　整備校:金谷小学校 　整備内容:教師用コンピュータ1台 　　　　　　児童用コンピュータ5台 　　　　　　サーバ1台	B	B
	○小・中学校図書整備事業 **平成23年度末における文部科学省基準冊数充足率** **小学校:66.0%　中学校:64.4%** ・小学校(26校)　713冊購入　　事業費　　992,216円 ・中学校(9校) 2,700冊購入　　事業費　3,995,592円 【参考】 平成22年度整備実績　小学校8,908冊購入　中学校7,451冊購入	B	B
	○小・中学校教材備品購入事業 小学校、中学校に必要な教材備品の購入 小学校費　14,866,222円　　　　中学校費　7,266,696円	-	B
	○小・中学校教師用教科書・指導書購入事業 教師用教科書・指導書・指導資料の購入 更に、学校現場の要望に応え、当初計画に追加して、新しく体育の指導書を購入し、体育指導を充実させることができた。 小学校費　31,997,761円　　　　中学校費　　146,149円	-	A
	○スクールバス管理運行 ・遠距離通学児童・生徒の安全安心な通学手段の支援 　金山スクールバス　1台 　　天津小14人　成和中6人 　公誠・北陵スクールバス　1台 　　上川口小21人　川口中5人 　大江スクールバス　5台 　　美河小41人　美鈴小1人　有仁小29人 　夜久野中スクールバス　4台 　　夜久野中78人	B	B
	○スクールバス車庫整備事業 (平成22年度からの繰越事業) ・公誠・北陵スクールバス車庫新築工事　事業費9,025千円　完成:平成23年6月	B	B
	学校教育課		
	○学齢簿システム整備事業 ・現行の学齢簿システムの保守契約終了に伴い、新たな学齢簿システムを構築した。	-	B
	給食センター		
	○新学校給食センター建設事業	B	B

成果 課題等	**教育総務課** 〇小学校耐震改修事業　〇中学校耐震改修事業 ・耐震診断業務、実施設計業務、耐震改修工事を行い、耐震補強計画を促進できた。 ・耐震補強工事については、小学校で3校4棟、中学校で1校1棟実施した。 〇小学校施設設備改修事業　〇中学校施設設備改修事業 ・学校プールの防音壁や便所を改修し、安全面・衛生面の向上が図れた。 ・安全対策、バリアフリー化の工事により、児童・生徒等の円滑な学校生活の確保が図れ、学校施設の安全対策とバリアフリー化が促進できた。 ・その他施設設備改修工事により、教育環境の改善や施設設備の充実が図れた。 〇配膳室整備事業 ・平成25年4月の中学校完全給食に向けた整備を行うことができた。 〇(仮称)夜久野学園整備事業 ・平成24年度の(仮称)夜久野学園校舎建設に向けて準備をすることができた。 〇小学校教育用コンピュータ等更新事業 ・1小学校において教育用コンピュータ等を更新し、情報教育を実施するのに十分な性能を持ったコンピュータ及び周辺機器を整備することができた。 〇小・中学校図書整備事業 ・学力向上には読書習慣を身につけさせることが必要であり、児童生徒の読書活動の充実に寄与するため、本市の学校図書の充足率が文部科学省の基準冊数の65%となるように、計画的・継続的に学校図書を整備することができた。 ・平成22.23年度において大量に図書を購入したことで、各校とも図書が充実し、学校図書館の有効利用につながった。 〇小・中学校教材備品購入事業 ・小中学校の教育推進に必要な教材備品を購入することができた。 平成23年度に整備した主な備品：児童生徒用机椅子・ストーブ・バーコードリピーター 〇小・中学校教師用教科書・指導書購入事業 ・小学校において新課程への移行に伴う購入と、小中学校におけるクラス増に伴う購入を行い子どもたちの教育に必要な教科書や指導書を整備することができた。 ・更に、子どもたちの体力向上を目指して、学校現場の要望に応え、精査の上必要分を選び、新しく体育の指導書を追加で購入し、体育指導を充実させることができた。 なお、購入に際しては、新たに予算化するのでなく、現予算の範囲内で調整し予算確保した。 ・学校現場の要望に応えた教科書・指導書購入に組み替えて好評を得た。 〇スクールバス管理運行 ・スクールバスを運行することで、遠距離通学となる児童・生徒の安全安心な通学手段の支援ができた。 〇スクールバス車庫整備事業 ・公誠・北陵スクールバス用の車庫を整備することで、児童・生徒の通学手段となるスクールバスを安全に管理をすることができるようになった。 **学校教育課** 〇学齢簿システム整備事業 ・新システムを導入し、学齢児童生徒の学籍管理及び就学援助に係る事務全般の効率化が図れる。 **給食センター** 〇新学校給食センター建設事業 ・新給食センター建設、機械設備、電気設備、厨房備品購入についての契約を締結し、工事着工した。	
内部総合評価	教総B (H22 B)	A評価とした事業もあるが、全体的にはどの事業も計画どおり目標は達成できた。
	学教B (H22 -)	計画どおり実施できた。
	給食B (H22 B)	工事は計画どおり着工したが、完成していないため、B評価とした。
担当課	教育総務課　学校教育課　給食センター	

施策別評価

施策名	3 生涯学習の推進		
方針	各地域において、幼児から高齢者までの生涯の各時期における学習・交流の場として、公民館や野外広場などの充実を図る。さらには、これらの施設を有効に利活用した施策を推進するリーダーの育成に努め、市民一人ひとりの自己実現を支援する。また、市民が心豊かで充実した生きがいある生活を送るために、生涯学習施設を活用するとともに整備を図り、いつでも、誰でも、どこでも、多様な方法で生涯学習活動を推進します。		
項目	(1)生涯学習を充実する	内部評価 H22	 H23
事業内容 実績 対象者等	**生涯学習課** ○生涯学習推進啓発事業 ・社会教育事業のまとめを発行し、目標が達成できた。 ○社会教育委員会議 ・第14期、『「若者の声が響くまち」を目指して』提言が提出された。 ・社会教育委員会議の開催 ・全国社会教育研究大会京都大会に運営スタッフとして従事した。 ・中丹地区、京都府社会教育委員連絡協議会総会の運営に従事した。 ○夜久野町生涯学習センター ・生涯学習の拠点として、研修、講演会、学習発表の場として有効活用を図られ、当初の目標が達成できた。 年間利用者数　16,821人	 B B B	 B B B
成果 課題等	**生涯学習課** ○生涯学習推進啓発事業 ・社会教育事業の総括資料として活用していく。 ○社会教育委員会議 ・教育委員会からの諮問はなく提言(第14期)が提出された。 ・毎月の例会において、本市社会教育事業に対する指導・助言を求めている。 ○夜久野町生涯学習センター ・生涯学習活動の拠点として有効活用が図られた。		
内部総合評価	B (H22 B)	年度当初の事業目標が達成できた。	
担当課	生涯学習課		

項目	(2)図書館活動を充実する	内部評価 H22	内部評価 H23
事業内容 実績 対象者等	図書館 ○資料収集整理事業 ・閲覧用図書資料の購入実績　一般書2,391冊、児童書1,823冊　計4,214冊 ・除籍資料等の有効活用(再利用) 公共施設(学校・公民館等)への提供1,004冊、市民への提供1,605冊、計2,609冊	B	B
	○読書活動支援事業等 ・「子ども読書の日」記念講演会 7/16　講師:村上康成氏　参加者147名 ・読書感想文の書き方講座『チャレンジ・ザ・読書感想文』8/25　申込み14名 (講師の都合により開催中止、資料送付のみ) ・読みきかせ学習会『紙芝居を楽しもう！』9/7　参加者18名 ・読みきかせ講座『ブックトークを楽しもう！』2/5　参加者38名	B	B
	○中央館、三和・夜久野・大江分館運営事業 [各館の年間貸出冊数] ・中央館　308,510冊(前年比52,065冊増) ・三和分館　13,109冊(　〃　1,801冊増) ・夜久野分館　34,690冊(　〃　757冊増) ・大江分館　12,138冊(　〃　2,712冊増)	B	A
成果 課題等	図書館 ○資料収集整理事業 利用者ニーズに応じた資料購入に努めたが、利用者満足度の面からみると十分な蔵書とはいえない。システム統合のメリットを生かし、今後更に中央館と分館の効率的で効果的な選書のの工夫と連携した貸出をし、利用者の満足に応える。 保存年限の経過した資料を市民や公共施設へ提供することにより、資料の有効活用ができ、市民サービスにつながった。 ○読書活動支援事業等 「子ども読書の日」記念講演会は、親子での多くの参加があり、読書活動に対する啓発につながった。また、読みきかせ講座では、読書ボランティアとして活動されている方への普及、育成を図ることができた。 ○中央館、三和・夜久野・大江分館運営事業 システム統合を行い、インターネットによる蔵書検索や予約の開始、貸出制限冊数を増やした事(5点⇒10点)により、年間の総貸出冊数が増加した。今後更に4館の一体的な運営を行い、資料の物流体制の確立を行うことで、利用者の利便性の向上を図る必要がある。		
内部総合評価	B (H22 B)　事業については、計画どおり実施でき当初の目標は達成できた。今後更に、利用者サービスの充実に向けて、4館の一体的な運営を進めていく必要がある。		
担当課	図書館		

<table>
<tr><td rowspan="2">項目</td><td rowspan="2">(3)生涯学習施設を整備・充実する</td><td colspan="2">内部評価</td></tr>
<tr><td>H22</td><td>H23</td></tr>
<tr><td>事業内容
実績
対象者等</td><td>公民館
○中央・地域公民館講座等開催事業
○地区公民館育成事業
・地区公民館事業負担金及び館長・主事手当支援
○公民館連絡会・連絡協議会開催
・市立公民館連絡会
・市立公民館主事会
・公民館連絡協議会
○高齢者ボランティア活動推進事業
・人材銀行登録者派遣・講座
・高齢者学級の開催
○市民会館・市立公民館管理運営事業
○公民館施設の整備・改修事業</td><td>
B
B

B

C

B
C</td><td>
B
B

B

B

B
B</td></tr>
<tr><td>成果
課題等</td><td colspan="3">公民館
○中央・地域公民館講座等開設事業
・講座の開催や人権研修、地域交流などの活動を行い、地域の生涯学習を推進する社会教育の拠点施設として、一定の実績を上げた。
・講座や公民館まつり等の開催により地域住民に対する生涯学習を推進した。また、交流事業を推進し、まちづくりにつなげた。講座によっては参加者数が減少しているものもあり、講座に対する住民ニーズの把握や啓発手法等の検討に努める。
○地区公民館育成事業
・新市移行後の経過を踏まえ、引き続き地区公民館に対し事業負担金及び館長・主事手当を支出し、支援を行った。
・旧3町公民館の地区公民館への移行に伴い、施設の地元移管に関し、地元関係者と協議を重ね、それぞれ普通財産、指定管理等に移行することで合意を得て、24年度から一部を除き基本的に地元移管となる。
○公民館連絡会・連絡協議会
・連絡会と主事会を毎月1回開催の上、各会では研究テーマを設定し各公民館間の連携を深めると共に、市立公民館の活動をより充実したものとするため意見交換や調査・研究に努める。
○高齢者ボランティア活動推進事業
・公民館人材銀行登録指導者の高齢化が進み、活動に影響が出る懸念もあったが次年度に向けての新たな取組として人材銀行郷土料理部等の協力により基礎料理教室を実施していくことで協議が整い、自らの企画・運営する自主講座の開設等の拡大を図ることができた。
○市民会館・市立公民館管理運営事業
・公民館は地域に開かれた「つどう・まなぶ・むすぶ」の機能を有する社会教育施設として、地域住民が容易に利用できるように門戸を開き、各種団体や機関及び関係施設との連携・協力しながら、交流(であい・ふれあい)活動を積極的に展開すべき役割をもつことから、各公民館施設等が連携を図りながら円滑な管理運営に努めており、今後とも引続き継続して取組を推進する。
○公民館施設の整備・改修
・各公民館施設も経年劣化が進み老朽化も著しく、活動運営に支障をきたしている状態にある。この様な状況下において、地域活性化交付金事業等を有効に活用しながら、限られた予算の範囲の中で優先順位に基づき、可能な限り、修繕、改修に努めた。
・他にも多くの破損・損障箇所が相当数あり、また、今後も引き続き新たな整備・改修が予想されることから、限られた予算の範囲内で、より計画的で効率的な整備・推進に努める。</td></tr>
<tr><td>内部総合評価</td><td>B
(H22 B)</td><td colspan="2">中央公民館・各地域公民館施設ともに経年劣化し、老朽化が著しく、活動運営に支障を来たしている状況にはあるが、現施設を有効活用を図る中で効率的な事業展開を図り、計画通り目標達成が図れた。</td></tr>
<tr><td>担当課</td><td colspan="3">公民館</td></tr>
</table>

施策別評価

施策名	4 文化財の保存・活用
方針	本市の歴史と文化を今に伝える埋蔵文化財や美術工芸品、建造物や古文書、伝説や民俗伝承などを保存・保護し、郷土を愛する心をはぐくむ学習資料とするため、文化財の調査と記録ならびに保存と活用を積極的に進めます。また市民共有の財産として市民自らがその重要性を認識し、理解して伝承することを働きかけるとともに、普及・啓発に努めます。

項目	(1)文化財を適切に保存し活用する	内部評価 H22	内部評価 H23
事業内容 実績 対象者等	**生涯学習課** ○文化財の指定 新たに大原神社(大原)のスギ、大岩神社(毛原)のアカガシ群、阿良須神社(北有路)のスギ、照仙寺(東堀)山門の4件を文化財保護審議会(山口正世司委員長)において調査、諮問の上、7月の教育委員会の決定により市の文化財に指定した。	B	B
	○文化財の保存・修理 文化財修理保全の相談や指導・助言を行い、文化財の保全事業10件に対して補助を実施した。また、京都府指定文化財(建造物)の松村家住宅(現足立音衛門本店)を、3か年計画で文化財保存修理事業を計画し、洋館の外壁、屋根を修理した。	A	B
	○埋蔵文化財保護の行政指導 埋蔵文化財包蔵地内での開発に対して、文化財保護法による適切な事前協議、相談、指導を行った。	B	B
	○埋蔵文化財の保存 民間開発に伴って、現状保存困難な宇土師のゲシ山古墳群(3号墳)の発掘調査を実施した。調査の結果、埋葬施設を1か所確認、古墳時代中期の土師器などの出土遺物を得て本市の歴史的資料を適切に保存することができた。また、市内遺跡の詳細内容確認調査として国庫補助を受けて夜久野ヶ原地区発掘調査を実施した。	B	B
	○天然記念物の調査・保護 福知山市の自然を詳細に調査し、冊子「(仮)福知山の自然遺産」を作成すると共に天然記念物として保全する天然記念物等総合調査事業を3か年事業として開始。	—	B
成果 課題等	**生涯学習課** ○文化財の指定、修理・保存 ・文化財指定によって福知山市の歴史・文化を保護し、後世に伝承することができる。 ・修理等によって、維持困難な文化財、文化資料を将来に伝承することができた。 ・文化財保全の困難な地域が増加(過疎等による)しつつある。維持・保全への新たな制度を検討する時期にある。 ・松村家住宅を将来にわたり適切に保存するとともに、本市の歴史遺産として地域振興、観光振興に寄与できる。 ○埋蔵文化財保護の行政指導、保存業務 ・適切な保存・保護を実施できたが、開発計画との迅速な調整、調査期間、調査費の負担に係わる協議が最も大きな課題である。 ・整理・保管及び普及啓発を実施する拠点施設の整備、確保。現文化財整理事務所(京口荘)の改修、整備が大きな課題である。 ○天然記念物の調査・保護 ・本年度は準備段階とし、実行委員会の調査推進体制の編成を中心に、市民への情報提供と事業PRを兼ねた情報収集シートを作製。次年度にその成果をもとに調査等を実施する。		
内部総合評価	B (H22 B)	年度当初の事業目標が達成できた。	
担当課	生涯学習課		

項目	(2)文化財の保護意識を高める	内部評価 H22	内部評価 H23
事業内容 実績 対象者等	**生涯学習課** ○文化財講座等の実施 子ども歴史博物館、出前講座、公民館講座や発掘調査現地説明会の実施。 老朽化した指定文化財説明看板の更新、新規設置を行った。	B	B
	○広報、情報の発信 ・文化財、日本の鬼の交流博物館のWEBページを頻繁に更新、情報発信に努めた。 ・指定文化財の旧三町分を補遺する指定文化財図録(補遺版)を刊行。 ・民俗学的伝承として貴重な大江山伝説、文化・観光資源である鬼文化を研究・啓発する世界鬼学会に対して助成を行った。	C	B
	○地域の伝承、文化普及事業 ・「戦友」(作詞者:真下飛泉)の顕彰歌碑について、宮川改修事業に伴ってKTR大江駅前に移設・設置した。また隣接する飛泉資料室の整備も合わせて行い、一般公開を開始した。	—	A
	○資料館の運営及び展示 ・日本の鬼の交流博物館は春季、夏季、夏の怪談噺(落語)会、鬼の面作り教室を開催。国民文化祭京都2011ふくちやまの中心イベントである日本「鬼文化」交流祭典の会場の一つとして、秋季特別展を盛大に開催した。 ・夜久野町化石・郷土資料館では地質資料、化石の学習・体験教室を開催した。	A	B
	○国民文化祭京都2011ふくちやま ・国民文化祭京都2011ふくちやまのプログラムである日本「鬼」文化交流祭典の展開において、日本の鬼の交流博物館特別展示「水木しげるの描く鬼たち」、鬼シンポジウムを開催した。	A	A
成果 課題等	**生涯学習課** ○文化財講座等の実施、広報、情報の発信 ・市民への文化財や発掘調査への理解、協力への周知を積極的に進めることができた。 ・画像を多用した容易な説明看板を設置し、市民の文化財に対する愛護意識の啓発に努めた。 ・WEBページPR、情報の充実、閲覧者数のUPを積極的に進めた。 ・未整備であった旧3町分の文化財図録を完成し、福知山市の歴史と文化を市民が理解し、ふるさとを愛する心を育む生涯学習教材とすることができた。 ・鬼伝説を主体とする資源を、福知山市の文化として活用することが重要であり、広くPRできた。 ○地域の伝承・文化普及啓発 ・著名な「戦友」を知る来訪者も多く、郷土の貴重な資料である真下飛泉関連資料の閲覧環境を整備することができたので、今後観光、地域振興に寄与できる。 ○資料館の運営及び展示 ・三和町郷土資料館の運営形態を検討し、有形文化財収蔵庫、農耕具等の体験、教材活用を小中学校に提案。 ・大江山の鬼、酒呑童子伝説を企画展、特別展、夜間開館を用いてPRに努め、またホームページによって積極的な情報提供を行って集客を確保するよう努力した。 ・鬼の交流博物館の更なる展開を模索し、「丹後天橋立大江山国定公園」、「千年の森」等の中での中核施設とし、鬼文化と一体とした集客力を得る努力が必要である。 ・福知山市の夜久野地域にある特徴ある地質や化石について、市民への学習への機会を提供すると共に、農匠の郷やくの内の施設として活用とPRを行うことができた。 ○国民文化祭京都2011ふくちやま ・国民文化祭が京都府で開催されるにあたり、本市では「鬼」と「盆踊り」の2種目が選定され、10月30日から11月30日の1か月に渡って盛大に実施された。日本の「鬼」文化交流祭典では、水木しげる氏が描いた鬼の絵約40点を日本の鬼の交流博物館で特別展示し、約4,000人の集客を得た他、鬼ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑでは著名な講師による講演、鼎談、能「大江山」の開催等により約700人の参加を得て、本市の鬼文化について市内はもとより、全国に情報を発信することができた。		
内部総合評価	B (H22 A・B)	年度当初の事業目標が達成できた。	
担当課	生涯学習課		

施策別評価

施策名	5 文化・スポーツ活動の推進
方針	各施設を拠点とした地域ぐるみの文化・スポーツ活動の定着と向上をめざします。また、施設相互の有効活用を進めるとともに、多様な市民ニーズに応える文化・スポーツ活動の場の提供に努めます。

項目	(1)文化活動を振興する	内部評価 H22	内部評価 H23
事業内容 実績 対象者等	**教育総務課** ○学校施設の使用 市民一人ひとりが、日々の生活の中で合唱や和太鼓演奏などの文化活動に親しみ、心身ともに元気で活気ある生活を送っていただくことができるよう学校施設を開放した。 実施された文化活動：合唱・和太鼓練習・バンド練習・福知山踊り・ダンスイベント 平成23年度使用実績（延べ数） 小学校 開放施設：体育館・音楽室・理科室・運動場　延べ138回　1,923人　16団体 中学校 開放施設：体育館・運動場　延べ　2回　670人　1団体	ー	B
成果 課題等	**教育総務課** ○学校施設の使用 ・本年度においても、多くの市民の皆様に学校施設を利用していただくことができた。 ・市民一人ひとりが文化活動に親しみ、心身ともに元気で活力ある生活を送っていただくことに寄与することができた。		

内部総合評価		
	B (H22 ー)	計画どおり目標は達成できた。
担当課	教育総務課	

項目	(2)スポーツを振興する	内部評価 H22	内部評価 H23
事業内容 実績 対象者等	**教育総務課** ○学校施設の使用 市民一人ひとりが、日々の生活の中でスポーツに親しみ、心身ともに元気で活気ある生活を送っていただくことができるよう学校施設を開放した。 平成23年度使用実績(延べ数) 小学校 1,781団体 130,870人 6,069日 中学校 529団体 24,365人 1,331日	B	B
成果 課題等	**教育総務課** ○学校施設の使用 ・本年度においても、多くの市民の皆様に学校施設を利用していただくことができた。 ・市内小中学校の体育館やグラウンドを貸し出すことにより、市民の体力づくりに寄与するとともに生涯体育・スポーツの振興を図ることができた。		
内部総合評価	B (H22 B)	計画どおり目標は達成できた。	
担当課	教育総務課		

施策別評価

施策名	6 生命の尊重・人権意識の高揚
方針	「福知山市人権施策推進計画」を基本とした人権問題を解決するための人権施策を総合的に推進し、生命・人権の尊厳を改めて認識するための人権教育・啓発を充実させるとともに、共生社会の実現と人権文化の創造を目指します。そのため、学習機会の充実や教育・啓発活動などを推進し、市民一人ひとりが互いの人権や価値観を尊重する気持ちを醸成し、自由・平等で公正な社会づくりに取り組みます。

項目	(1)人権教育・人権啓発を推進する	内部評価	
		H22	H23
事業内容 実績 対象者等	**生涯学習課**		
	○差別を許さない人材育成事業 STAR(差別を許さない)子ども育成協議会とともに、あらゆる差別を許さず見逃さない、心豊かな人権感覚を持った子どもの育成を進めた。 ・中学生人権文化体験研修 ・障害のある子どもたちの社会参加 ・ヒューマンシネマフェスタ 年度当初計画目標が達成できた。	B	B
	○沖縄平和・人権文化体験研修事業 戦争の悲惨さと平和の尊さ、沖縄の歴史と文化について学ぶとともに、学習の成果を学校や地域で生かすことのできる人材の育成を進めた。	―	B
	○市民人権意識調査事業 平成22年度意識調査結果に基づき、人権問題毎に市民に分かりやすい啓発パンフパンフレット(10種類)を初めて作成した。	A	A
	○公民館・企業巡回人権教育講座事業 地区公民館・企業などが主体となって、地域や各企業の実態に即した人権学習を実施し、「共に幸せを生きる」共生社会の実現に努めた。 ・地区公民館等巡回人権教育講座 地区公民館等が中心となって、99会場で実施し、延3,348人の参加があった。 ・企業巡回人権教育講座 市内企業62社にて、企業内の人権問題に関する啓発ビデオの視聴覚研修を実施した。	B	B
	○共に幸せを生きるまちづくり人権講座事業 「共に幸せを生きる」共生社会の実現に向けて、人権問題を正しく理解するために人権講演会などを行い、人権が尊重された誰もが生きやすいまちづくりに取り組んだ。	B	B
	○教育集会所学習活動事業 人権学習会や文化交流活動を開催し、互いの人権や価値観を尊重する気持ちを醸成し、自由・平等で公正な社会づくりを進めた。 また月1回開催のグループ会議(担当者会議)で、情報交換や職員研修を行い、学習内容の充実や職員の資質の向上に努めた。	―	B

成果 課題等	**生涯学習課** ○差別を許さない人材育成事業 ・STAR子ども会員を組織化し、継続した事業参加による子どもの主体的な事業運営ができるようになった。 ・STAR子ども会員の中でリーダーとなる子どもの育成を図る必要がある。 ○沖縄平和・人権文化体験研修事業 ・沖縄戦の戦跡をフィールドワークすることで、戦争の悲惨さ、平和の尊さについて、また沖縄に今なお残る様々な問題について自ら考える契機となった。また、夏休み期間中に実施したことで、年間を通して研修の成果を啓発することができた。 ・「長崎平和学習の旅」と連携して研修を進め、参加者の交流を図ることができた。 また、STAR事業と連携することで、リーダーとしての人材育成を図ることができた。 ○市民人権意識調査事業 ・今回初めて作成したパンフレットは、従来の冊子「活用のまとめ」に比べ、市民啓発を主とした内容にしたため、市民啓発に活用しやすい。 今後、パンフレットを活用してどのような研修を企画していくかが課題である。 ○公民館・企業巡回人権教育講座事業 ・地区公民館等巡回人権教育講座 参加者が固定化・高年齢化している。新規参加、若年齢層の参加を増やしていく必要がある。 ・企業巡回人権教育講座 企業ニーズに応じた啓発テーマの選定と、企業の自主性を高めていくことが課題である。 ○共に幸せを生きるまちづくり人権講座事業 ・さまざまな人権問題について正しく理解を深めるため、地域公民館を中心に学習機会を設けているが、特に30代、40代の市民の皆さんの参加拡大を図るため、会場を地域公民館だけでなく、PTAと共催し小中学校で実施した。今後も20代を含めた若年層の参加拡大を図るために、保育園、幼稚園と連携した人権講座の実施を検討するとともに、様々な人権問題についての学習テーマの企画立案と参加しやすい機会の提供に努めていく。 ○教育集会所学習活動事業 ・教育集会所活動の内容を高めるためには、職員の資質の向上が必要であり、そのための職員研修を実施する必要がある。	
内部総合評価	B (H22 B)	年度当初の事業目標が達成できた。
担当課	生涯学習課	

施策別評価

施策名	7 教育委員会の運営改善
方針	主体的でより市民に信頼される、開かれた教育委員会の運営に努めます。

<table>
<tr><td rowspan="2">項目</td><td rowspan="2">(1)教育委員会活動を充実する</td><td colspan="2">内部評価</td></tr>
<tr><td>H22</td><td>H23</td></tr>
<tr><td>事業内容
実績
対象者等</td><td>教育総務課
○教育委員会の議事
原則として毎月1回「定例会」、必要に応じて「臨時会」を開催
また、事前協議等のための「協議会」も開催
教育委員会定例会12回 同臨時会3回 同協議会10回
「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第23条に定める職務、同法第26条及び「福知山市教育委員会基本規則」第10条に定める事務について審議
教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること 4件
委員会規則その他委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること 3件
教育予算、条例案、その他議会の議決を経るべき議案について 12件
法令又は条例に定めのある附属機関の委員の委嘱 2件
委員会及び学校その他の教育機関の職員の人事に関すること 7件
教科書の採択に関すること 1件
教育に係る後援に関すること 6件
教育に係る表彰に関すること 1件
市指定文化財の指定に関すること 1件
教育委員会点検・評価に関すること 1件
○教育委員会点検・評価
・地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、平成22年度事業にかかる点検・評価報告書を作成、公表
・青少年の健全育成、学校教育の充実、生涯学習の充実、文化財の保存活用・普及啓発、スポーツ活動・文化活動の推進、生命の尊重・人権意識の高揚、教育委員会の運営改善の計7施策(23項目、119事業)について点検・評価
点検・評価会議:計5回開催 9/8. 9/14. 9/26. 10/4. 10/27
点検・評価委員:足立正夫氏・池田廣子氏
点検・評価委員の意見や助言を基にして報告書を作成
H24.1.25 教育委員会において報告書承認
H24.1.26 市議会正副議長に報告書概要説明
H24.2.7 市議会文教建設委員会にて報告書概要説明
H24.2.13 市議会議長に報告書提出
H24.2.20 報告書の公表(報道関係公表・市教育委員会ホームページ掲載等)</td><td>B

B</td><td>B

B</td></tr>
<tr><td>成果
課題等</td><td colspan="3">教育総務課
○教育委員会の議事
・市民に信頼される、開かれた教育委員会の運営を目指して取り組んだ。
今後とも教育委員会の任務を遂行していけるようにする。
○教育委員会点検・評価
・市民への説明責任を果たすとともに、市民に信頼される教育行政のより一層の推進に取り組んでいくきっかけとなった。</td></tr>
<tr><td>内部総合評価</td><td>B
(H22 B)</td><td colspan="2">教育委員会は、計画どおり開催することができた。また、点検・評価については計画どおり行い、報告書を市議会に提出し公表することができた。
よって、どちらも計画どおり目標は達成できた。</td></tr>
<tr><td>担当課</td><td colspan="3">教育総務課</td></tr>
</table>

項目	(2)教育委員会議を公開する	内部評価	
		H22	H23
事業内容 実績 対象者等	**教育総務課** ○委員会の広報及び公聴 教育委員会議の開催については、市教育委員会のホームページにおいて開催通知及び市広報担当課を通じて広報した。 平成23年度での会議傍聴　延べ21人	B	B
成果 課題等	**教育総務課** ○委員会の広報及び公聴 ・議事録は、情報開示請求があった場合公開しているが、今後はホームページへ掲載するなど市民に広くお知らせする方法を検討していく必要がある。		

内部総合評価	B (H22 B)	計画どおり目標は達成できた。
担当課	教育総務課	

（4）福知山市教育委員会事務点検及び評価実施要綱

平成23年３月30日
教育委員会告示第２号

（目的）

第１条　この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条の規定により、福知山市教育委員会（以下「委員会」という。）の権限に属する事務の管理及び執行の状況について行う点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）に関し、必要な事項を定め、もって効果的教育行政の推進に資するとともに、市民に対する行政の透明性の確保と説明責任を果たすことを目的とする。

（点検及び評価の対象）

第２条　点検及び評価の対象は、委員会の権限に属するもので、前年度に実施した事務とする。

（点検及び評価の実施）

第３条　前条に規定する事務について、所管する課等が点検及び評価表を作成する。

２　点検及び評価の方法並びに結果について、客観性及び透明性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者（以下「点検評価委員」という。）から意見を聴取する。

３　点検及び評価に関し必要があると認めたときは、会議に関係者の出席を求め、説明又は意見を求めることができる。

４　点検及び評価が終了したときは、速やかに当該結果を委員会に諮るものとする。

（点検評価委員）

第４条　点検評価委員は２人とし、委員会が委嘱するものとする。

２　任期は、２年とし、再任を妨げない。ただし、点検評価委員が欠けた場合は、前任者の残任期間において、新たな点検評価委員を委嘱するものとする。

（市議会への報告）

第５条　委員会は点検及び評価にかかる結果を市議会に報告し、かつ、公表するものとする。

（点検及び評価結果の活用）

第６条　委員会は、点検及び評価の結果を踏まえて、事業への取組、予算編成、事務事業の改善等に活用するものとする。

（庶務）

第７条　点検及び評価に関する庶務は、教育総務課において処理するものとする。

（その他）

第８条　この要綱に定めるもののほか、点検及び評価の実施に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附　則

この要綱は、平成23年４月１日から施行する。

平成２４年度（平成２３年度対象）
福知山市教育委員会点検・評価報告書
発行　平成２４年１２月
編集　福知山市教育委員会

〒620－8501
京都府福知山市字内記１３番地の１
TEL　０７７３－２２－６１１１（代表）
FAX　０７７３－２４－４８８０